

◆拠点整備における主な留意事項（千葉県3エリア共通事項）

□堤外地や農地における施設整備上の制約

河川区域（堤外地）や農用地においては、河川法や農地法の基準から常設施設の建設は困難であるため、移設簡易型の施設整備に限定される。

□農薬の空中散布との調整

エリアによっては、現在も農薬の広域的な空中散布が実施されており、コウノトリの生息・繁殖に直接的・間接的に影響を与える可能性があるため、拠点整備の具体化段階で調整が求められる。

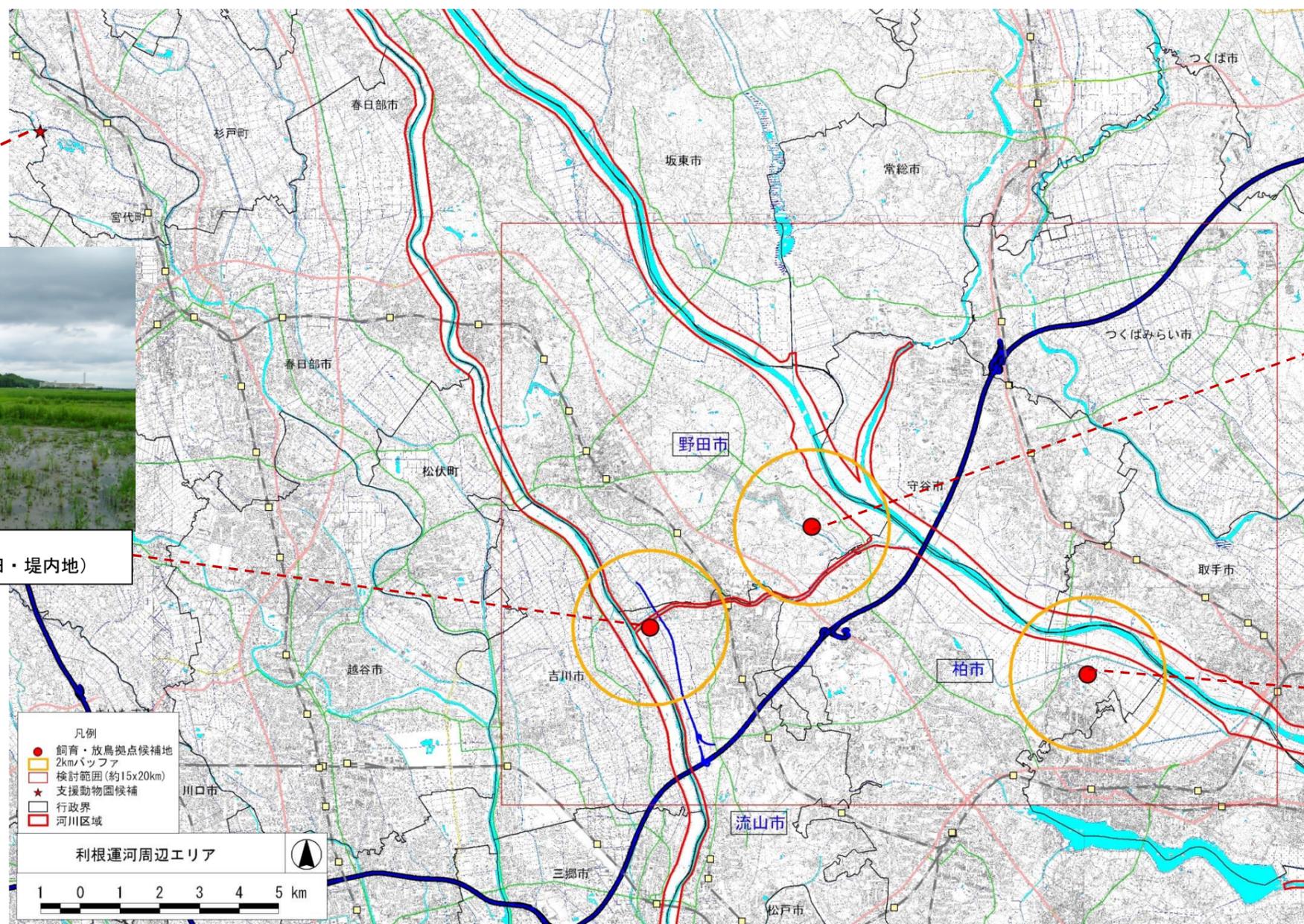
□農家、内水面漁業者等の理解・調整

河川や田んぼを餌場とするコウノトリと、直接的な関わりを持つであろう住民、農家や内水面漁業者等に理解をはかる上での普及PRを行うとともに、実現可能なあり方についての調整を行う必要がある。

飼育・放鳥拠点候補地（例）：

【利根運河周辺エリア】

- ◆支援動物園候補
東武動物公園(白岡町)
□拠点候補地までの所要時間:約60~80分
□民間経営



①江川地区
(野田市三ヶ尾、瀬戸・堤内地)



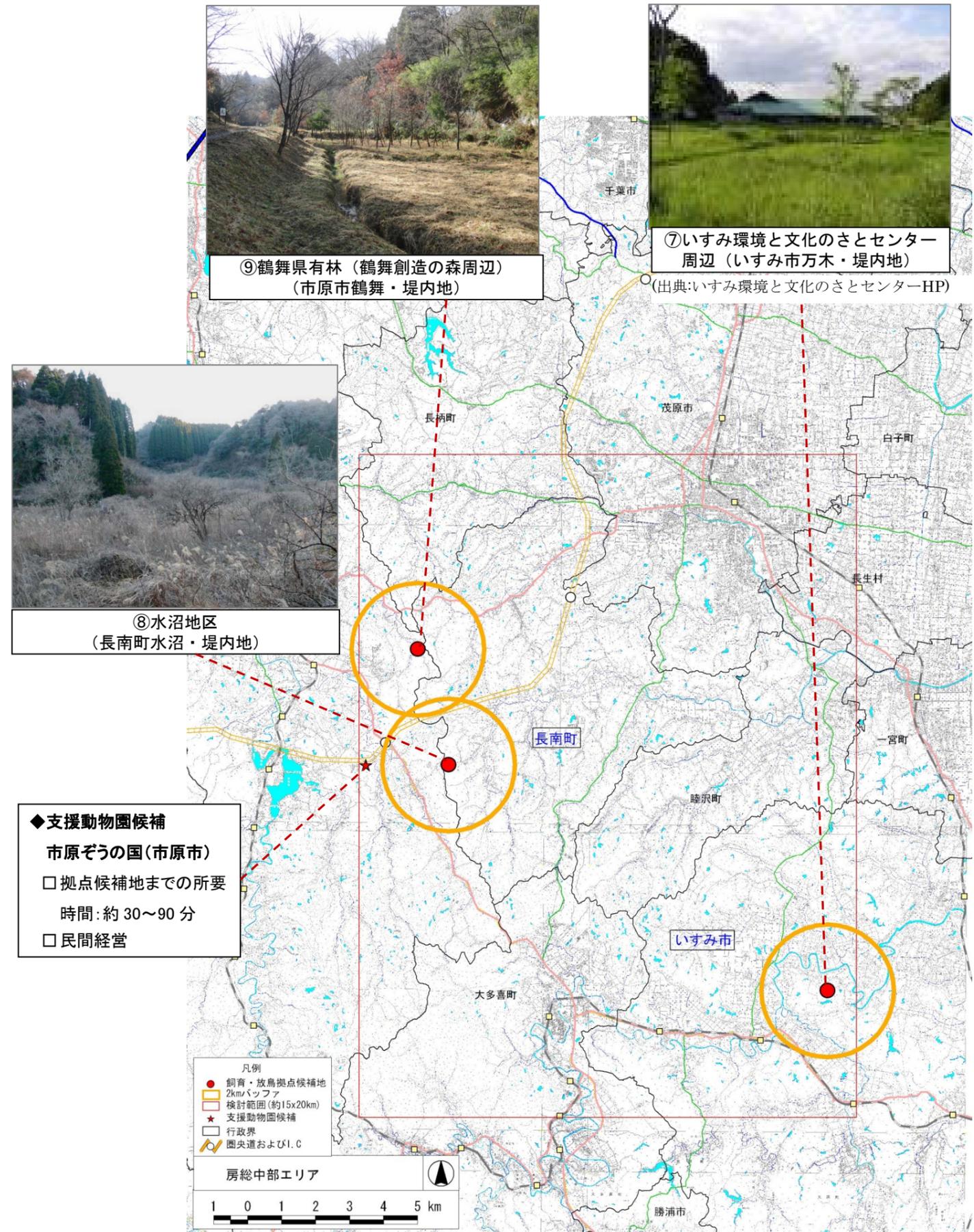
③田中調節池(あけぼの山農業公園周辺)
(柏市弁天下・堤外地)

飼育・放鳥拠点候補地（例）：【北総（印旛沼・手賀沼）エリア】



飼育・放鳥拠点候補地（例）：

【房総中部エリア】



◆各エリアにおけるコウノトリ・トキの生息環境整備対象地 —概要—

- (1) 河川環境 — 多自然川づくり、自然再生事業、河川環境整備事業等の推進水田環境
- (2) 水田環境 — 農地・水・環境保全向上対策、農業農村整備事業等の推進

| ■採餌環境 | | | | | | |
|-------------|--------|----------------------------|---------------------|-------------|--------|---------|
| (1)河川環境 | | | | (2)水田環境 | | |
| エリア名 | 主な対象河川 | 河川管理者 | 延長・面積 | エリア名 | モデル自治体 | 水田面積 |
| 利根運河周辺 | 江戸川 | 江戸川河川事務所 | 54.6km | 利根運河周辺 | 野田市 | 1,420ha |
| | 利根運河 | 江戸川河川事務所 | 6.8km | | 流山市 | 196ha |
| | 利根川 | 利根川上流河川事務所 | 101.0km | | 柏市 | 1,270ha |
| | 鬼怒川 | 利根川上流河川事務所 | 3.0km | | | |
| | 小貝川 | 下館河川事務所 | 78.1km | | | |
| 北総(印旛沼・手賀沼) | 利根川 | 利根川下流河川事務所 | 右岸85.8km、左岸87.1km | 北総(印旛沼・手賀沼) | 印西市 | 891ha |
| | 小貝川 | 利根川下流河川事務所 | 7.1km | | 我孫子市 | 919ha |
| | 手賀川 | 利根川下流河川事務所 | 7.7km | | 白井市 | 312ha |
| | 印旛放水路 | 千葉県 | 18.9km | | | |
| | 手賀沼 | 千葉県 | 6.5km ² | | | |
| | 印旛沼 | 千葉県 | 11.5km ² | | | |
| 房総中部 | 夷隅川 | 千葉県 | 65.0km | 房総中部 | いすみ市 | 3,010ha |
| | 埧生川 | 千葉県 | 14.5km | | 市原市 | 3,900ha |
| | 一宮川 | 千葉県 | 30.3km | | 長南町 | 1,130ha |
| | 養老川 | 千葉県 | 73.4km | | | |
| ■営巣・埧環境 | | | | | | |
| (3)樹林環境 | | | | | | |
| エリア名 | 主な樹林地 | 営巣・埧環境整備の方向性 | | | | |
| 利根運河周辺 | 江戸川河岸 | : 河畔林の保全・育成 | | | | |
| | 堤内樹林地 | : 市域内の平地林、社寺林、屋敷林等の保全・育成 | | | | |
| | 谷津斜面林 | : 下総台地斜面樹林帯の保全・育成 | | | | |
| 北総(印旛沼・手賀沼) | 堤内樹林地 | : 市域内の平地林、社寺林、屋敷林等の保全・育成 | | | | |
| | 谷津斜面林 | : 下総台地に櫛状に残る谷津田斜面林の保全・育成 | | | | |
| 房総中部 | 河畔林 | : 夷隅川・埧生川等の蛇行河川の河畔林の保全・育成 | | | | |
| | 丘陵樹林地 | : 上総丘陵の森林等の保全・育成 | | | | |
| | 谷津斜面林 | : 上総丘陵に樹枝上に延びる谷津田斜面林の保全・育成 | | | | |

◆各エリアにおける採餌環境改善の課題 – 餌資源ポテンシャル予備評価結果から –

| エリア名 | 利根運河周辺 | | 北総(印旛沼・手賀沼) | | 房総中部 | |
|------|-----------------------------|--------------------|-----------------------------|--------------------------|---------------------------------------|--------------------|
| 課題 | 繁殖前期(1月~3月:造巢~産卵期)の餌生物量の不足 | | 繁殖前期(1月~3月:造巢~産卵期)の餌生物量の不足 | | 年間を通じた良好な餌資源ポテンシャルを損なわない土地利用と利用可能性の拡充 | |
| 対策 | ■河川域 | | | | | |
| | ・利根運河 | 自然再生事業等による湿地の保全・再生 | ・利根川 | 自然再生事業等による湿地の保全・再生 | ・中小河川 | 各種河川事業の導入による浅水域の創出 |
| | ・大中河川 | 各種河川事業の導入による浅水域の創出 | ・中小河川 | 各種河川事業の導入による浅水域の創出 | | |
| | | | ・印旛沼、手賀沼 | 各種河川事業の導入による沼岸帯・エコトーンの復元 | | |
| ■水田域 | | | | | | |
| | 農地・水・環境保全向上対策を用いた「冬期湛水田」の拡大 | | 農地・水・環境保全向上対策を用いた「冬期湛水田」の拡大 | | 農地・水・環境保全向上対策を用いた「冬期湛水田」、「環境保全型農業」の展開 | |

◆各エリアにおいてコウノトリ・トキの採餌(生息)環境として期待される関連する事業との連携

●利根運河周辺エリア：
『利根運河エコパーク構想』



利根運河(水域)
良好な湿性林
連続性のある河川・水路、湿地
良好な樹林地
利根運河(陸域)

利根運河(陸域・水域)、良好な湿性林・樹林地、および連続性のある河川・水路、湿地等の環境特性を活かした、地域の生物多様性を保全・再生するエコロジカル・ネットワークの形成が目標

出典：利根運河エコパーク実施計画

●北総(印旛沼・手賀沼エリア)：
『印旛沼流域水循環健全化計画』の推進

印旛沼の将来の姿

基本理念と印旛沼流域の将来のすがた

基本理念 恵みの沼をふたたび



《谷津・里山》(夏の頃) 豊かな湧水が湧き、ふるさとの生き物が豊かな里山を目指します。

《沼のほとり》(夏の頃) 子どもたちの水辺遊びの場、また、漁業、農業等生業の場として利用される等人と共生し、また大雨が降っても安全な沼を目指します。

《水辺の生き物たち》(初夏の頃) 沈水植物等の水草が繁茂する等、ふるさとの生き物をはぐくむ豊かな水辺環境を再生していきます。

5つの目標のひとつとして「ふるさとの生き物をはぐくむ印旛沼・流域」が挙げられている。

出典：印旛沼流域再生-恵みの沼をふたたび- 第7回印旛沼再生行動大会資料

●房総中部エリア：
『千葉の里山・森づくりプロジェクト』
リーディング事業・活動候補地



川原井新田
鶴舞県有林
上滝ノ谷
都タム周辺
大沢(旧富山町)
県立長生の森公園
長南町水沼
九十九里海岸保安林
太東崎灯台周辺
いずみ市新田
いずみ市山田

●房総中部エリアとその周辺には様々なタイプの里山再生のプロジェクトが構想されており、水田と樹林帯を一体的に維持、保全することを通じて、これらの有機的な連携・広がりからコウノトリ・トキの生息環境の創出・充実化が期待されます。

出典：千葉の里山・森づくりプロジェクト
http://www.pref.chiba.lg.jp/syozoku/b_seisui/chiiikisenryaku/satopro/top.htm

<検討対象エリア全体の特徴>

- ・ 首都 30km 圏内に位置し、常磐自動車道や国道 16 号、東武鉄道、つくばエクスプレス(TX)と多彩な交通手段により、都心から 1 時間程度とアクセスの便が良い。
- ・ 利根川、江戸川、利根運河の大河川に囲まれ、川沿いには広々とした水田が広がり台地上には緑濃い平地林が点在し、くつろぎとやすらぎの大規模空間が残っている。
- ・ エリア北部は、谷津地形の自然や舟運の歴史文化が多く残る一方、エリア南部はつくばエクスプレスの開業に伴い新市街地が形成され、商業施設や大学等の研究機関の集積が進み、それぞれの特徴を活かした新しい地域融合のあり方が求められている。
- ・ 平成 16 年冬には、柏市内の田中調節池でコウノトリが飛来・越冬した記録があり、また、野田市・流山市にもコウノトリの生息を類推させる「鴻巣」・「このす台」といった地名が残るコウノトリとの係わりがある地域。

<地域振興を考える上でのポイント>

エリアの中心を流れる「利根運河」を軸に、平成 18 年度より自然と歴史が調和した魅力的な地域づくりに向けた、国・県・流域自治体・市民団体等による連携推進体制が整い、エコロジカルネットワークの形成に資する水辺環境の保全・再生や都市住民をターゲットとしたエコツーリズムの展開等の活動がスタートしている。エリア内には、江川地区（野田市）、新川耕地（流山市）、田中調節池（柏市）等の地域を代表する大規模緑地空間が存在し、都市内では味わうことの出来ない安らぎの場の提供が可能であると共に、自然・歴史・農業等をキーワードとした環境改善活動が積極的に推進され、生態的インフラが急速に集積されつつある。

“コウノトリ・トキと共生する利根運河周辺の地域づくり”の展開は、コウノトリ・トキというインパクトの強いシンボルを通じてエリア内の主要な水辺・緑地拠点全体を一体的にアピールし、また、大学等との連携により、南関東地域の中心地としてコウノトリ・トキに係わる先端情報を発信するなどの試みにより、全国へ“環境先進地域”であることをアピールできる。

運河が刻む歴史と谷津に コウノトリとトキが翔ぶ

環境先進地域『利根運河周辺エリア』

■“コウノトリ・トキが見守るビオトープ水田”での農業体験



飼育・放鳥拠点のすぐ側で、コウノトリ・トキを見守り見守られながら、生息環境づくりにつながる、生きものにやさしい農法を実践する体験農園や市民水田で、多くの市民が農作業をしながらコウノトリ・トキを観察。
(例) 江川地区（水田型市民農園）・あけぼの山農業公園

■利根運河地域の自然と舟運文化を楽しむツアーやイベントとの連携



既存の市民団体や、鉄道会社の取組を活かし、利根運河フットパスや、江戸川・利根川のサイクリングロードを軸に、舟運文化や野田の醤油の歴史、自然観察を織りまぜ、コウノトリやトキの姿をさがすウォーキング等の地域ふれあいイベントやエコ・ツアーを実施。



■“コウノトリ・トキと共生する都市”として 先端技術の調査・研究を行い発信



都市でのコウノトリ・トキとの共生モデルとして、つくばエクスプレス沿線に集積する大学等の機関により、社会経済や自然環境、農業技術などについて調査・研究を行い、先端情報を全国へ発信する。
(例) UDCK、東京理科大学、東京大学、千葉大学など

■農産物直売所で“コウノトリ・トキブランド”の農産物・加工品を販売



ビオトープ水田でのお米や農産物、利根運河エリアならではの、醤油や味噌を活かした加工品をコウノトリ・トキのための環境づくり商品としてPRし販売
(例) 農産物直売所「かしわで」「ゆめあぐり野田」

■主要なアクセスポイントの既存集客施設を

『コウノトリ・トキの情報センター』として活用



放鳥個体の情報や飛来情報、エリア内での体験学習やエコツアーの申込みなど、コウノトリ・トキに係わるセンター機能を付加
(例) 流山おおたかの森SC、かしわインフォメーションセンター、運河交流館

<資料内出典>

※1:グラフ野田(2009年42号) ※2:豊岡市HP ※3:千葉大学環境健康フィールド科学センターHP ※4:かしわインフォメーションセンター HP ※5:流山おおたかの森SCHP ※6:野田市HP その他印のないものは(財)日本生態系協会撮影

<検討対象エリア全体の特徴>

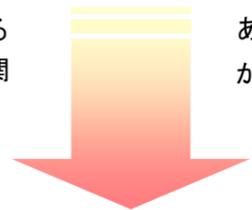
- ・都心から約30km、成田空港から約15kmの交通の要衝に位置し、平成22年度に開通予定の「成田新高速鉄道」、「北千葉道路」の整備により成田空港・羽田空港が直結し、全国から世界への玄関口とも言えるエリア。
- ・首都圏のベッドタウンとして「千葉ニュータウン」に続き、今後も人口の増加が見込まれ、近代的な都市と昔ながらの里山の共存が求められる地域。
- ・地域を特徴づける自然環境である「手賀沼」・「印旛沼」では、県が中心となり国・流域自治体、事業者、活動団体や住民等の関係主体が一丸となって水質の改善や、沼の自然環境の再生に向けた活動が活発に展開されている。
- ・手賀沼は、明治中期までコウノトリ・トキの両種がともに生息していた記録が残されている全国的にも注目されるエリア。明治以降に、この2種が同じ水辺で確認されていたのは、関東地方では手賀沼が唯一。

<地域振興を考える上でのポイント>

明治中期までコウノトリ・トキが舞っていた「手賀沼」、水環境の再生が広範囲に推進される「印旛沼」、北総地域を特徴づける沼と利根川の2つの水辺、そしてその周辺の里山に刻まれた谷津田は、昔ながらの“日本の里”そのもの。

一方で、都心から1時間程度で来訪でき、さらに「成田新高速鉄道」や「北千葉道路」の開通に伴うアクセスの向上。特に、成田・羽田の両空港との直結による海外・全国からの玄関口としての役割を担う地域としての特性。これらを踏まえた、新たな近代的な地域整備の進展の中で、どのようなバランスをとるかが大きな課題と言える。

“コウノトリ・トキと共生する北総の地域づくり”は、里山・水田と言う日本独特の風景に日本を代表する生物であるコウノトリとトキが舞い、その環境空間を保全再生しつつ外国人観光客までも視野に入れた「伝統」と「近代」が共存する地域づくりが展開しうる。

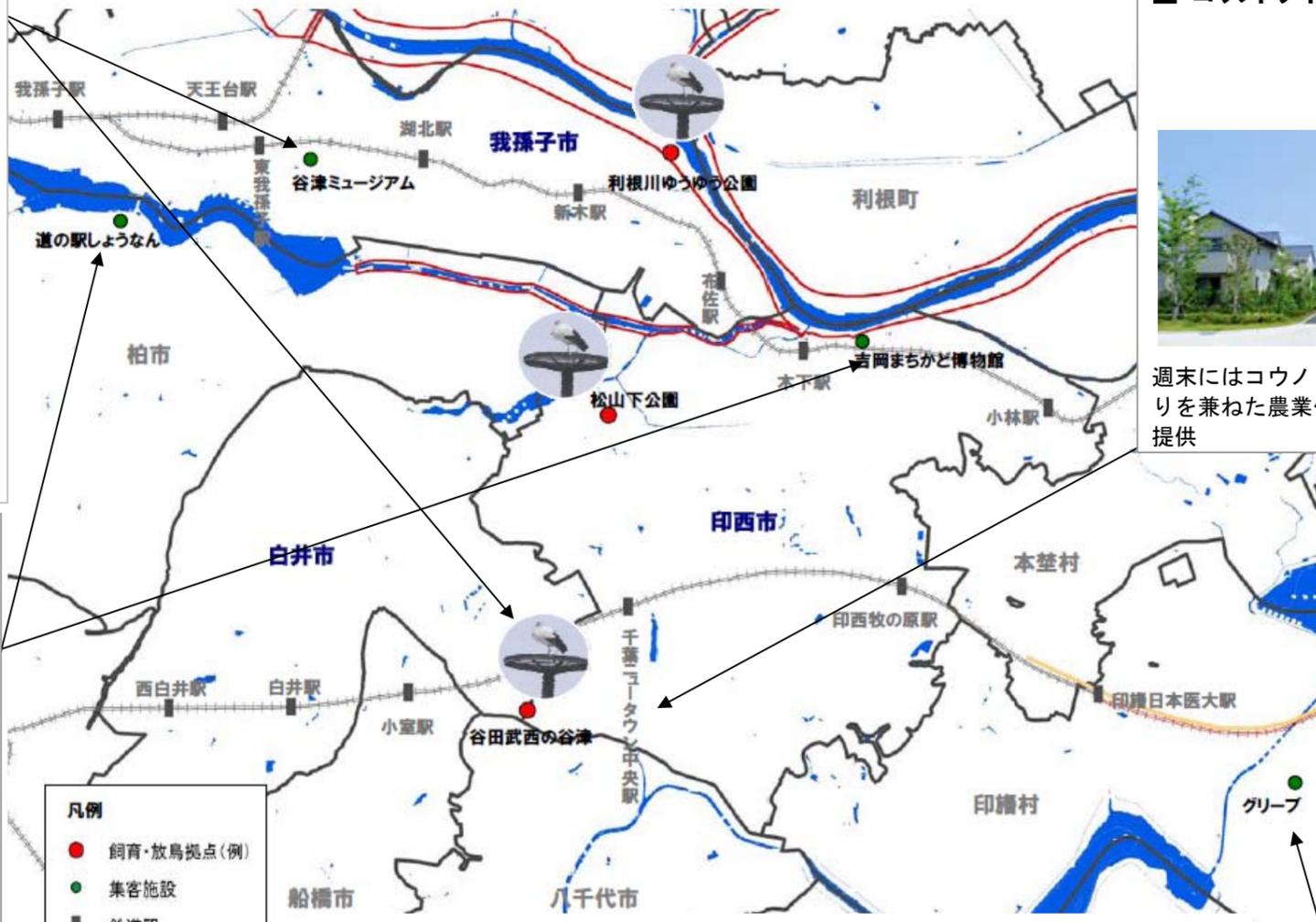


■コウノトリやトキが舞う谷津田で昔ながらの農業・里山の暮らしを体験



コウノトリ・トキの生息地となる谷津田や里山を中心に、地域団体や既存のガイドと連携し、空港からの外国人観光客、首都圏からの来訪者が米作りや炭焼き、舟運の歴史、自然観察などを通じて、日本の自然や伝統的農業・暮らしを体験できるエコツアーを展開。
(例) 谷津ミュージアム、谷田・武西の谷津 など

日本を象徴する里地里山にコウノトリ・トキが舞う 世界に開かれた玄関口『北総(印旛沼・手賀沼)エリア』



■“コウノトリ・トキとともに住むニュータウンの暮らし”を提供



週末にはコウノトリ・トキが舞う谷津田を訪れたり、生息環境づくりを兼ねた農業体験や里山管理活動を楽しめる自然豊かな住環境を提供

■飼育・放鳥拠点近くの既存集客施設を『コウノトリ・トキの情報センター』として活用



放鳥個体の飛来情報の発信や、首都圏や海外からの来訪者への体験学習・エコツアーの申込みなど、コウノトリ・トキに係わるセンター機能を付加。
(例) 道の駅しょうなん、吉岡まちかど博物館 など

■観光案内所や空港・都内のアンテナショップでコウノトリ・トキのブランド農産物・加工品とともに“日本の里”をPR



各市の取り組むブランド農産物や水産資源を活かした伝統的な加工品とともに、コウノトリ・トキの舞う「日本の里」を観光案内所や空港などで、全国や海外にPRし集客。
(例) 成田空港、グリーン 我孫子駅前インフォメーションセンター

<資料内出典>
※1: 原生生物情報サーバ ※2: ポーイング・ジャパン社 HP ※3: 道の駅しょうなん HP ※4: 吉岡まちかど博物館 HP ※5: 積水ハウス(株)HP ※6: 豊岡市 HP ※7: グリーン HP その他印のないものは(財)日本生態系協会撮影

<検討対象エリア全体の特徴>

- ・ 都心からエリア内へのアクセスは、JRの特急利用で1時間、自動車で2時間を要するが、アクアラインの値下げや、平成24年度開通予定の「圏央道」、「長生グリーンライン」などにより、内房・外房の回遊も含め道路環境は大幅に改善される。
- ・ 房総半島の自然公園の広がりの中で、森林面積がエリアの4割以上を占め、大小様々な規模の谷津田も多く典型的な日本の原風景が広域に残っている。
- ・ こうした房総の海と里山の自然が都市住民を惹きつける魅力となり、各地で人口減少が問題視される中で2地域居住や移住による人口の増加も見られる。
- ・ 長柄町の谷津田では平成16年にコウノトリが飛来し越冬している。

<地域振興を考える上でのポイント>

道路網の整備に伴う、東京からのアクセス向上や、房総周遊の環境改善による観光客・移住者の増加に向けて、エリア内の広域的・一体的な広報促進に向けた連携体制が、他地域に比べ格段と整っている。里山での環境にやさしい農業の実践や森の管理、ローカル鉄道ののんびりした旅などは、近年の環境志向やLOHAS、スローライフといった新しい暮らしや旅のスタイルと合致し、さらにコウノトリやトキが舞う質の高い自然環境と伝統的な景観の再生は、房総地域の持つ魅力を更に高め、セカンドライフの居住先や若い移住者、都市住民の観光客などへの絶好のPR素材となりうる。

房総の森や田でコウノトリ・トキと共に生きる
里山スローライフを提供する『房総中部エリア』

■「道の駅」や「都内アンテナショップ」、「海ほたるPA」等で
“地域イメージ”を強調するブランド農産物・加工品や
地域情報を一体的にPR



アクアライン・圏央道を利用する首都圏住民を引き込むため、各市町が取り組むブランド農産物や加工品をコウノトリ・トキの環境づくり商品として「道の駅」や「都内アンテナショップ」で販売。地域での体験情報や、移住情報も一体的に発信。
(例) 海ほたるPA、道の駅あずの里いちほら、つどいの郷むつざわ グリーンスパいすみの墨田区アンテナショップ

■“コウノトリやトキが舞う
里山暮らしの場・体験の場”を都市住民に提供



コウノトリ・トキの飼育・放鳥拠点周辺の放棄水田や森林を対象に、クラインガルテンやオーナー制の水田等を整備し、首都圏からの観光客や、季節居住者、移住者などをターゲットに、トキ・コウノトリのための森づくりや自然にやさしい米づくりを楽しむ場として活用。
(例) 鶴舞県有林、水沼地区、いすみ環境と文化のさとセンター など



■飼育・放鳥拠点近くの既存集客施設を
『コウノトリ・トキの情報センター』として活用



放鳥個体の情報や飛来情報、房総地域での体験学習やエコツアー、移住者同士の交流など、コウノトリ・トキに係わるセンター機能を付加
(例) いすみ環境と文化のさとセンター

■コウノトリやトキの生息する里山を巡る
ローカル線を活かしたエコツアー



列車からコウノトリやトキの観察できる企画列車を走らせたり、駅から養老溪谷やホテルの郷、里山の地域文化を楽しむエコツアーを実施するなどローカル線を、「コウノトリ・トキの舞う里」として展開。
(例) いすみ鉄道、小湊鉄道

<資料内出典>

- ※1:長南町商工会 HP
- ※2:NEXCO 東日本 HP
- ※3:房総 LIFE ホームページ
- ※4:(社)千葉県農業協会
- ※5:小湊鉄道(株)HP
- ※6:嵯峨野観光鉄道 HP
- その他印のないものは(財)日本生態系協会撮影

2-3 ワーキング・グループの開催

対象5エリアについて、3つのワーキング・グループ（千葉県WG・荒川流域WG・渡良瀬WG）を設置し、各1回の開催（下表参照）を通じ、南関東地域における水辺環境エコロジカル・ネットワーク形成による魅力的な地域づくりについて、個別・具体的な検討を行った。

以下に開催趣旨、及び各WGの委員名簿、議事要旨を示す。

| WG | 開催日時・場所 | 座長・幹事市 |
|--------|---------------------------------------------------|----------------------------|
| 渡良瀬WG | 平成22年2月8日（月） 10:00～12:00 小山市役所3階大会議室 | 座長：桜井善雄委員 代表幹事市：栃木県小山市 |
| 荒川流域WG | 平成22年2月15日（月） 14:30～16:30 鴻巣市立総合体育館2階会議室 | 座長：浅枝隆委員 代表幹事市：埼玉県鴻巣市 |
| 千葉県WG | 平成22年2月17日（水） 14:00～16:00 京成ホテルミラマーレ8階オーキッド | 座長：長谷川雅美委員 代表幹事市：千葉県野田市 |

(1) 開催趣旨

南関東地域は、都市化の進行に伴う生態系喪失に対する解決策として、貴重な水辺空間・緑地空間を保全・再生し、水と緑のネットワーク形成を図り、野生生物の生育・生息空間を確保することが求められています。豊かな生態系の指標として、生態系の高次消費者であるコウノトリやトキに着目することにより、多様な生物が生息可能な環境づくりが可能となります。また、併せて環境と経済の調和を図った地域振興・経済活性化の方策を検討することにより、広域連携による地域の自立的な発展に貢献することが可能となります。

南関東地域において、多様な主体が協働・連携し、コウノトリ・トキを指標とした河川及び周辺地域における水辺環境の保全・再生方策の実施を通じて、将来のコウノトリ・トキの野生復帰に向けた魅力的な地域づくりのための地域振興・経済活性化方策を検討し、エコロジカル・ネットワークの形成に向けた広域連携モデルづくりを検討することを目的として「南関東地域における水辺環境エコロジカル・ネットワーク形成による魅力的な地域づくりワーキング」を開催します。

(※WG資料より抜粋)

(2) 委員名簿

南関東地域における水辺環境エコロジカル・ネットワーク形成による魅力的な地域づくり

渡良瀬ワーキング委員名簿

(敬称省略)

| | 氏名 | 団体名等 |
|--------|--------|----------------------------|
| 有識者 | 桜井 善雄 | 応用生態学研究所 所長 |
| | 清水 義彦 | 群馬大学大学院 教授 |
| 関係市町村 | 大久保 寿夫 | 栃木県 小山市長 |
| | 永島 源作 | 栃木県 藤岡町長 |
| | 真瀬 宏子 | 栃木県 野木町長 |
| | 白戸 仲久 | 茨城県 古河市長 |
| | 栗原 実 | 群馬県 板倉町長 |
| | 倉上 皖教 | 埼玉県 北川辺町長 |
| 関係行政機関 | 高橋 克和 | 関東地方整備局河川部河川環境課長 |
| | 細谷 裕士 | 関東農政局農村計画部資源課長 |
| | 田所 正 | 利根川上流河川事務所長 |
| | 池田 猛 | 栃木県 県土整備部長 |
| | 高斎 吉明 | 栃木県 農政部長 |
| | 三浦 義和 | 栃木県 環境森林部長 |
| 関係団体 | 青木 章彦 | わたらせ未来基金 代表世話人 |
| | 白井 勝二 | (財)渡良瀬遊水地アクリメーション振興財団 専務理事 |
| | 高松 健比古 | 日本野鳥の会栃木県支部 幹事 |

南関東地域における水辺環境エコロジカル・ネットワーク形成による魅力的な地域づくり

荒川流域ワーキング委員名簿

(敬称省略)

| | 氏名 | 団体名等 |
|--------|--------|----------------------|
| 有識者 | 浅枝 隆 | 埼玉大学大学院 教授 |
| | 杉田 勝彦 | (社)埼玉県農林公社 理事長 |
| | 日橋 一昭 | こども動物自然公園管理事務所 所長兼園長 |
| | 葉山 嘉一 | 日本大学生物資源科学部 准教授 |
| | 松浦 茂樹 | 東洋大学国際地域学部 教授 |
| 関係市町村 | 新井 保美 | 埼玉県 吉見町長 |
| | 石津 賢治 | 埼玉県 北本市長 |
| | 岩崎 正男 | 埼玉県 桶川市長 |
| | 高田 康男 | 埼玉県 川島町長 |
| | 原口 和久 | 埼玉県 鴻巣市長 |
| 関係行政機関 | 高橋 克和 | 関東地方整備局河川部河川環境課長 |
| | 細谷 裕士 | 関東農政局農村計画部資源課長 |
| | 三橋 さゆり | 荒川上流河川事務所長 |
| | 永田 喜雄 | 埼玉県 県土整備部長 |
| | 西崎 泉 | 埼玉県 農林部長 |
| | 星野 弘志 | 埼玉県 環境部長 |
| 関係団体 | 行森 英治 | 川島町の自然を守り育む会 代表 |
| | 川島 秀男 | 鴻巣の環境を考える会 会長 |
| | 堂本 泰章 | (財)埼玉県生態系保護協会 事務局長 |

南関東地域における水辺環境エコロジカル・ネットワーク形成による魅力的な地域づくり
千葉県ワーキング委員名簿 (敬称省略)

| | 氏名 | 団体名等 |
|--------|--------|------------------------|
| 有識者 | 蘇 雲山 | 環境文化創造研究所主席研究員 |
| | 中村 俊彦 | 千葉県立中央博物館 副館長 |
| | 長谷川 雅美 | 東邦大学理学部 教授 |
| 関係市町村 | 秋山 浩保 | 千葉県 柏市長 |
| | 井崎 義治 | 千葉県 流山市長 |
| | 太田 洋 | 千葉県 いすみ市長 |
| | 佐久間 隆義 | 千葉県 市原市長 |
| | 根本 崇 | 千葉県 野田市長 |
| | 藤見 昌弘 | 千葉県 長南町長 |
| | 星野 順一郎 | 千葉県 我孫子市長 |
| | 山崎 山洋 | 千葉県 印西市長 |
| | 横山 久雅子 | 千葉県 白井市長 |
| 関係行政機関 | 高橋 克和 | 関東地方整備局河川部河川環境課長 |
| | 細谷 裕士 | 関東農政局農村計画部資源課長 |
| | 高島 英二郎 | 江戸川河川事務所長 |
| | 田所 正 | 利根川上流河川事務所長 |
| | 松井 健一 | 利根川下流河川事務所長 |
| | 橋場 克司 | 千葉県 県土整備部長 |
| | 依田 茂 | 千葉県 農林水産部長 |
| | 市原 久夫 | 千葉県 環境生活部長 |
| 関係団体 | 一島 正四 | NPO 法人ラーバン千葉ネットワーク 理事長 |
| | 金親 博榮 | 里山シンポジウム実行委員会 代表 |
| | 新保 國弘 | 東葛自然と文化研究所 所長 |
| | 手塚 幸夫 | ちば生物多様性県民会議 副代表 |

(3) 渡良瀬ワーキング議事要旨

■日 時：平成 22 年 2 月 8 日（月）10：00～11：55

■場 所：小山市役所 3 階 大会議室

■出席委員：（名簿順、敬称略）

桜井 善雄（応用生態学研究所長）／清水 義彦（群馬大学大学院教授）／大久保
寿夫（栃木県小山市長）／永島 源作（栃木県藤岡町長 代理：菅沼 利光 建設
課長）／真瀬 宏子（栃木県野木町長 代理：寺内 由一 総務課主任）／白戸 仲
久（茨城県古河市長 代理：刈部 俊一 企画政策課課長補佐）／栗原 実（群馬
県板倉町長 代理：中里 重義 企画財政課長）／倉上 皖教（埼玉県北川辺町長）
／高橋 克和（関東地方整備局河川部河川環境課長 代理：清水 良朗 河川環境
課調査係長）／細谷 裕士（関東農政局農村計画部資源課長）／田所 正（関東地
方整備局利根川上流河川事務所長）／池田 猛（栃木県県土整備部長 代理：平山
浩之 河川課副主幹）／高斎 吉明（栃木県農政部長 代理：和氣 好延 農地整
備課課長補佐）／三浦 義和（環境森林部長 代理：薄井 孝 自然環境課課長補
佐）／青木 章彦（わたらせ未来基金代表世話人）／白井 勝二（（財）渡良瀬遊水
地アクリメーション振興財団専務理事）／高松 健比古（日本野鳥の会栃木県支部
幹事）

■随行者、オブザーバー（順不同、敬称略）

松本 勝（小山市企画財政部長）／三田 久雄（小山市企画財政部企画調整課長）／田
村 豊・渡邊 拓也（小山市企画財政部企画調整課）／平間 達良（藤岡町建設課）
／金井 崇（北川辺町総合政策課）／浜田 謙二郎（関東農政局農村計画部資源課係
長）／羽澤 敏行（関東地方整備局利根川上流河川事務所地域連携課長）／池上 清
子（関東地方整備局利根川上流河川事務所地域連携課）

■事務局

野田市都市計画部 ：伊藤秀一、相島一美、染谷尚之
（財）日本生態系協会 ：須永伊知郎、関健志、遠藤立



1. 開 会
2. あいさつ（小山市 大久保市長）
3. 座長あいさつ（桜井座長）
4. 議 事（桜井座長）
 - (1) 調査背景について
 - (2) 調査結果について
 - (3) コウノトリ・トキの野生復帰の可能性について

※事務局より、調査背景について[資料 1]、調査結果について[資料 2]、コウノトリ・トキの野生復帰の可能性について[資料 3]を説明した。
5. そ の 他
6. 閉 会・あいさつ（野田市 伊藤都市計画部長）

【説明及び質疑応答・意見】

□ワーキングの名称・構成・対象範囲について

- ・渡良瀬は北関東に位置するかと思うが、「南関東」とした理由はなにか。それと農林水産省と国土交通省の関わりは分かったが、環境省の動きはどのようなのか。
また、先の検討委員会の議事録には、霞ヶ浦を含めるべきとの意見があったようだが将来的にどのようなのか。
- ・なぜ「南関東」なのかは、本プロジェクトが位置づけられた計画に基づいている。すなわちこの間の動きとして、平成 20 年 7 月に全国を対象とした「国土形成計画」が策定され、それを受けて平成 21 年 8 月に、関東版の「首都圏広域地方計画」が策定された。その「首都圏広域地方計画」の中の 24 のリーディングプロジェクトのひとつとして「南関東水と緑のネットワーク形成プロジェクト」が位置づけられている。本プロジェクトは、これを活用・具体化するための検討が基本にあり、生物多様性保全の考え方としてエコロジカル・ネットワークを導入した経緯がある。本来であれば、「北関東」、渡良瀬遊水地や霞ヶ浦も含めてというのが正しい進め方だと理解しているが、そうした広域計画の流れの中で、今回は「南関東」という言葉での検討をご理解いただきたい。
- ・本プロジェクトの検討は環境省、国交省、農水省の三者の本省レベルで話を進めてきていた経緯がある。ただし、トキについては、佐渡市で 2015 年までに 60 羽を定着させるという大目標があり、環境省として積極的に関東でもすぐに進めるという声は、現時点で上げづらい状況だと聞いている。その一方で、環境省には国土レベルでトキやコウノトリが生息できるようなエコロジカル・ネットワーク形成の構想があり、今後も関わり合いを持って行きたいとの意向を審議官からも聞いている。また、こちらからも今回の検討の経緯は、随時説明をするようにしている。
- ・地域のエリアやいろいろな連携は、これを出発点として、だんだん広域的に広げていくという考え方でよいか。

- ・はい。今回は各地域で、特に関連深いと思われる市町村長に声をかけて設定した部分があり、自治体の意向によって今後広がっていく可能性はあると思う。
- ・一番の問題は餌場の確保だと思う。渡良瀬遊水地における湿地の保全・再生の動きに加え、堤内地側の冬場の水田に水を張ってエサを確保するために、農家の協力を得る努力がこれから必要になると思う。このプロジェクトを成功させるためには、地域住民の理解と農家の積極的な協力が不可欠であろう。いろいろな主体で協力しながら、みんなでこの地域にコウノトリとトキを呼ぶ意欲を持って、農家にもご協力いただけるような環境づくり・雰囲気づくりが大切だと思う。
- ・豊岡や佐渡の実績では、農水省としてはどういう関わりを持っているのか。
- ・豊岡・佐渡の先行事例で一番問題になったのは産業の部分と聞いている。
 一次産業に関しては、コウノトリ・トキの餌場になるような営農方法で栽培された米が付加価値により高値で売られている状況で、それを受けて農家が積極的に進めるに至っている。他産業についても、トキやコウノトリの恩恵である外部経済価値を商品に内部化することによって、誰か特定の一部が負担になるような施策でないことを実証していると思う。
- ・本プロジェクトにおける関東農政局の役割は、基礎調査・現況評価に基づき、エコロジカル・ネットワークを踏まえた餌環境向上対策の検討と理解している。この点については、すでに各自治体において取り組まれている、「農地・水・環境保全向上対策」を使っていくことが有効であると思う。
 また、基本的な調査は、すでに北陸農政局や近畿農政局としてかなりのデータを持っており、農政局間のネットワークがあるので、資料等は提供できる。
 最後に、冬期湛水に使う水だが、このエリアは地盤沈下地帯のため地下水を安易に使えないので、地表水の手当てが重要な課題かと思う。
- ・私も参加した「広島県の灰塚ダムウェットランド事業地」では、コウノトリ3羽が滞在し、エサを採ったりしていた。このことから、環境の質と大きさによって、野生復帰の可能性が検討できると思った。ただしここでは、コウノトリの繁殖まではできなかった。おそらく生息地の面積が狭く、餌場が足りなかったのだろう。
- ・小山市では、一昨年6月に「環境都市宣言」を行い、「農地・水・環境保全向上対策」についても強力に推進している。特に、対策の営農活動である減農薬・減化学肥料に取り組んでおり、「生井っ子」という銘柄米として市価よりも高値で販売している。
 渡良瀬遊水地については、治水容量の確保が優先ではあるが、この環境を小山市の宝として、希少な動植物が生存する場所として活かした地域振興を進めたい。そのひとつとして、コウノトリが小山市にすめるような議論ができて大変嬉しく思う。
 そうしたことから、小山市では来年度に市単独費で、本プロジェクトの推進・継続のために、渡良瀬遊水地のエコロジカル・ネットワーク関連の調査予算を計上したところである。

□「渡良瀬遊水地湿地保全・再生検討委員会」との関係について

- ・渡良瀬遊水地においては湿地保全・再生計画策定のための検討委員会が、現在開催されている。その検討に基づき、今年の春にかけて市民が学習していただけるような施設整備と湿地再生の試験掘削を進めている。この計画は我々の公共事業ということではなく、いろいろな方たちと一緒に進めていきたいと考えている。
- ・「湿地保全・再生検討委員会」では、間もなく最終的な計画を出すことになるが、その中では水辺をより多く創出することが必要だと思う。その意味でも最終的な計画の中に、本プロジェクトで検討しているコウノトリ・トキの野生復帰について入れて頂きたい。水辺の環境教育の場を作ることに絡めて、総合的に文章で表現できれば良いと思う。
- ・「湿地保全・再生検討委員会」も、今回のワーキングでの検討も基本路線は変わらないと思うし、整合性もとれるので、NPOの立場としても取り組んでいきたいと思う。エリア内では、NPO どうしの連携もとられている。
- ・渡良瀬遊水地は今まで治水・利水を目的にした施設だったが、本プロジェクトを通して環境の目標が明確になることで、今後の環境保全について多くの人々に理解が得られるようになると思う。そのためにも、本プロジェクトで検討する基本構想、将来の目標、イメージは非常に大事だと思う。

渡良瀬遊水地の環境の豊かさが、地元の人たちにまだ浸透してない感じがするので、生物の簡易図鑑など作成してPRを続けている。今回の目標のコウノトリの他にも、ワシタカ類や絶滅危惧種が多数生息しているので、それらもあわせて遊水地の保全に取り組んでいきたいと思う。

また、コウノトリの生息環境づくりとは反対の方向になるかもしれないが、すでに遊水地では環境保全のためのヨシ焼きや、上空のレクリエーション利用が行われている。それらを含めた地域振興について、総合的に検討していただければと思う。

- ・豊岡市の円山川では湿地再生のための河道の掘削が行われているが、湿地環境においては、本エリアは渡良瀬遊水地、渡良瀬川、利根川といった恵まれた水域があり、それが地域特性であると感じる。その意味でも、渡良瀬遊水地、それにつながる支川、本川における生息環境面からの評価の位置づけを行っていくことが重要かと思う。

また、今回の評価は、餌生物が住めるような水域面積に基づくものであるが、実際にそこに餌が根付くためには、農薬の問題など農家の方々の努力がこのプロジェクト成功の多くを占めていると思う。

学術的な点からもコウノトリの生息環境として好ましい方向に進めるためには、地域に情報を提供し、地域を巻き込み、地域の努力として生息環境づくりに繋がるような戦略を展開する必要があるだろう。

□冬期湛水について

- ・冬期湛水田に関しては宮城県の蕪栗沼周辺が有名であり、あちらではガン・ハクチヨウが地域資源として大盛況である。本プロジェクトの対象エリアの市町の方々には、宮城県の大崎市、兵庫県の豊岡市をぜひ視察していただきたい。農家の方々も一緒に行って交流されると非常に参考になると思う。

渡良瀬遊水地周辺の水田は、シギ・チドリのような長い渡りをする鳥たちの内陸の拠点になっており、ラムサール条約の登録要件に合致するすばらしい地域である。ラムサール登録のための要件としても、水辺の環境、水田の環境は重要だと思う。6つの市町による広域的な協力関係、自治体間の連携が重要だと思う。

□他エリアのワーキングの状況について

- ・ワーキングについては、埼玉県内を中心とした「荒川流域エリア」、千葉県は「利根運河エリア」、「北総エリア」、「房総中部エリア」の3か所を一緒に行うことになっている。

事務局として、それぞれの地域の県・市町の首長さんたちとお話ししているが、どれも非常に関心が高く、積極的である。豊岡の市長との話では、豊岡でコウノトリを放してもどこかに飛んで行ってしまうことがあるため、分散した先でも生きられるような環境整備を広域的に取り組んで欲しいということだった。関東ではそれぞれの地域が同時にワーキングを開いて、国交省、農水省、各県の連携も徐々にできているため、ぜひ先進的な事例を形にしていきたいと考えている。

- ・そういうところで、このワーキングを続けていくのか。
- ・本プロジェクトは、親となる検討委員会があって、ワーキングが各エリアで1回あって3月中に2回目の委員会を行う。各エリアのワーキングは、今年度内に各1回だけになっているので、何らかの形で続けられるような仕組みができれば良いと思っている。
- ・生態系の連続的な部分、それをどう発展させたらいいかを念頭に置いてプロジェクトを進めていけたらと思う。ぜひ、よろしくお願ひしたい。

また、対象エリアの関東には、徳川時代の終わりから明治にかけての生物の記録が様々に残っている。これらも活用してプロジェクトを合理的に進めて欲しいと思う。

- ・豊岡での農業政策や地域合意の中で、農家の方がどう決断されたかが参考になるし、その過程でかなり市役所の方は頑張ったのではないかと思う。キーパーソンとなった農家の方、地元の方の求心力が地域づくりにつながった豊岡の“環境と経済の両立をしている仕組み”を参考にすることが重要であろう。

□各国でのエコロジカル・ネットワークの取り組みについて

- ・ヨーロッパでの先進的なエコロジカル・ネットワークの取り組みはどう進められて

いてどういう成果があったのかをぜひ聞きたい。

- ・我々の協会では、1995年にベルギーのEU本部でエコロジカル・ネットワークの書籍を見たのが最初だが、そこにはヨーロッパ諸国では、各公共事業における法律にもとづく最上位計画に、自然環境計画があり、それを踏まえて道路・インフラ等の計画があることにたいへん驚いた。ヨーロッパでは生態系の許容量の中で様々な人間活動が行われ、持続可能な社会を成立させるための具体的な施策として、エコロジカル・ネットワーク形成がすでに始められていた。

経済と調和するエコロジカルな取り組みについて、地域の方たちや各セクターが集まって全体的に取りまとめていく、先駆的な本プロジェクトの事務局の立場として、各国での実情報告等の機会があれば、ぜひやらせていただきたい。

□今後の課題について

- ・検討委員会の課題の中で、冬期の水のネットワークをどう確保するかを、ぜひ検討してほしい。取り組みを成功させるための一番大きな課題となると思う。
- ・今年度は、検討委員会2回、ワーキング3回を計画しているが、先ほど大久保・小山市長から市単独でも続けていくという心強い意見もあったので、検討委員会については来年度以降も継続する方向で調整を図りたい。各地域から出される意見の交換の場としてでも、何らかの方法で残していきたいと思っている。

冬期の水利権については、今後の展開を見ながら調整していきたいと思っている。

- ・冬期通水については利根川右岸では十数年間、左岸では4年前から実施されている。関東整備局、河川課、関東農政局の協力で水がほぼ通年流れているが、水量的にはコウノトリの餌場を作るには足りないと思う。流域で融通しながら、冬期通水について工夫と配慮をぜひともお願いしたい。

(4) 荒川流域ワーキング議事要旨

■日 時：平成 22 年 2 月 15 日（月）14：30～16：30

■場 所：鴻巣市立総合体育館 2 階 会議室

■出席委員：（名簿順、敬称略）

浅枝 隆（埼玉大学大学院教授）／杉田 勝彦（（社）埼玉県農林公社理事長）／日橋 一昭（こども動物自然公園管理事務所長兼園長）／新井 保美（埼玉県吉見町長）／石津 賢治（埼玉県北本市長 代理：新井 保次 市民経済部長）／岩崎 正男（埼玉県桶川市長 代理：興津 吉彦 副市長）／高田 康男（埼玉県川島町長 代理：伊藤 順 都市整備課長）／原口 和久（埼玉県鴻巣市長）／高橋 克和（関東地方整備局河川部河川環境課長 代理：清水 良朗 河川環境課調査係長）／細谷 裕士（関東農政局農村計画部資源課長）／三橋 さゆり（関東地方整備局荒川上流河川事務所長）／永田 喜雄（埼玉県県土整備部長 代理：日野 努 水辺再生課主査）／西崎 泉（埼玉県農林部長 代理：難波 明寛 農業政策課）／星野 弘志（埼玉県環境部長 代理：藤澤 俊行 自然環境課主幹）／行森 英治（川島町の自然を守り育む会代表）／川島 秀男（鴻巣の環境を考える会会長）／堂本 泰章（（財）埼玉県生態系保護協会事務局長）

■欠席委員：（名簿順、敬称略）

松浦 茂樹（東洋大学国際地域学部教授）／葉山 嘉一（日本大学生物資源科学部准教授）

■随行者、オブザーバー：（順不同、敬称略）

武藤 宣夫（鴻巣市経営政策部長）／志村 恒夫・望月 栄・坂野上 宝（鴻巣市経営政策部）／濱田 謙二郎（関東農政局農村計画部資源課係長）／須田 敦志（関東地方整備局荒川上流河川事務所副所長）／伊藤 一十三（関東地方整備局荒川上流河川事務所河川環境課長）／藤田 昇・長島 敏雄・坂本 利夫・宮脇 則夫・伊藤 铸義（こうのとりを育む会）／三友 晃・鈴木 弘（（財）埼玉県生態系保護協会会員）／串田 英生（北本市議）／佐藤 洋（桶川市議）

■事務局

野田市都市計画部 : 伊藤秀一、相島一美、染谷尚之
（財）日本生態系協会 : 須永伊知郎、関健志、遠藤立



1. 開 会
2. あいさつ（鴻巣市 原口市長）
3. 座長あいさつ（浅枝座長）
4. 議 事（浅枝座長）
 - (1) 調査背景について
 - (2) 調査結果について
 - (3) コウノトリ・トキの野生復帰の可能性について
※事務局より、調査背景について[資料 1]、調査結果について[資料 2]、コウノトリ・トキの野生復帰の可能性について[資料 3]を説明した。
5. そ の 他
6. 閉 会・あいさつ（野田市 伊藤都市計画部長）

【説明及び質疑応答・意見】

□コウノトリに関する鴻巣市民による活動について

- ・鴻巣市で活動している「コウノトリを育む会」では、今朝、鴻巣市長に 17,303 人の署名をお渡しし、協力をお願いした。鴻巣の環境を考える上で、コウノトリが住める環境を取り戻そうということから活動が発展した。
- ・鴻巣市での取組みは知っていたが、南関東でのエコロジカル・ネットワーク形成については、まだ地元の人に知られていない。知られたらもっと盛り上がるのではないかと思う。
- ・鴻巣市の行政には、これから本腰をいれていただきたい。市民としては市の熱意を県・国に支援してもらえるように、盛り上げていきたい。

□人間活動とコウノトリ・トキの共存について

- ・地域のインフラとしての上尾道路、圏央道の整備と、トキやコウノトリがうまくマッチングするか。オオタカの問題で公共事業がストップしているが、その二の舞にならないか。
- ・オオタカは人為的な開発との共存が難しい一面があるが、コウノトリ・トキはもと

もと里地・水田の鳥であり、開発計画との整合は取れると考えている。豊岡では、田んぼから市街地の中の電柱にコウノトリがとまっているような状態である。荒川流域は、渡良瀬、千葉に比べても、東京からの人を呼ぶのに有利であり、むしろ道路整備は地域振興の面から追い風になると期待される。

- ・開発抑制というよりも、観光資源としての効果のほうが大きいと思われる。
- ・オオタカはどこ(の林)に巣をつくるかわからないが、コウノトリの場合は人工の巣塔の上に普通に巣を作るのか。
- ・コウノトリは、もともとマツの大木だけでなく人工物を使って営巣する習性がある。豊岡の近年の事例では、すべて人工の巣塔の上で営巣しているため、水田と巣塔のセットで計画的に営巣地の誘導が可能であると思われる。
- ・ドイツに視察に行ったとき、コウノトリは民家の屋根にも巣を作っていた。煙突など10m前後の高さのところであれば、樹木に限定しないようだ。また、地域のマスコットになりやすい存在なので、魅力的な地域づくりのシンボルとしてふさわしいと思う。

□コウノトリ・トキによる経済効果について

- ・コウノトリ・トキによる経済効果は、東京を近くに控えたこの地域ではおそらく豊岡の数倍はある。
- ・川島町では直売所の景気が良い。訪れる人は地元のものを買いたい。ブランドとしてコウノトリの名を冠したものは作りやすいので、地元の商工・農業に資することが多いと思う。
- ・鴻巣市では有機栽培した米を「こうのとりの伝説米」としてデパートやパンジーハウス（農産物直売所）などで販売している。今のところ高い価格で販売されている。豊岡でも農家の人は最初は反対していたが、自分たちの体にもよく、子どもたちが田んぼにやってくるようになったと喜んでいるとのことだ。
- ・豊岡市の中貝市長との話の中で、誰かが負担をして環境を守っていく時代ではないとあった。環境サービスをどれだけ内部化できるかのシンボルとしてコウノトリがある。経済と環境の分野は、これから足を引っ張るのでなく共にプラスになっていく時代なので、今回の取り組みは先駆的な例となる。

□コウノトリの生息環境の保全について

- ・日本ではなかなかないが、欧米には巨大都市の周辺には緑地がある。コウノトリ・トキがどこの地域にいてもおかしくない。
- ・コウノトリのねぐら環境としての森づくりも重要である。荒川沿いの河岸部には良い斜面林が残っているところがあるが、年々伐採が進んでいる。荒川左岸の斜面林の保全に取り組むことが重要である。
- ・本当は市町としては林を残したくても、民地のため売られてしまうことがある。コ

ウノトリはシンボルではあるが、全体の自然を育てるような雰囲気を作ることで、人にとってもいい環境を作れるようになるのかと思う。

- ・オオタカやクマタカには保護指針がある。コウノトリ・トキの保護指針のようなものを作れないか。
- ・コウノトリ・トキと人の暮らしとが調和するような仕掛けづくりとセットでないと、取り組みは難しい。
- ・基本は自然との共存のシンボルとしてのコウノトリだと思う。共存にはルールが必要であり、また、地元農家の協力なしでは実現できるものではない。ルール作りについても同じことが言えると思う。

□各行政主体によるサポート体制について

- ・荒川流域では、これまでも豊岡の方を呼んだりして勉強会を開いている経緯がある。豊岡では行政がコウノトリをシンボルとした事業の統括的な窓口を作ったのが大きいと聞いた。市町の取組みが基本としても、国や県がどのようなサポートをする意思があるかをぜひ聞かせて欲しい。
- ・この事業は今年度いっぱい予定だったが、地元が盛り上がってきているため、関東地方整備局としても、今後も5エリアの連携を見守っていききたい。
- ・農林水産省は、本調査において餌資源の調査を担当している。施策としては農地・水・環境保全向上対策の広報が必要だと思っている。関係市町に対しては、水田の冬期湛水の水手当てなどについては、他のセクションと連携をとってやっていきたい。
- ・荒川には広い流域と長い河道があり、自然再生事業などさまざまな活動が行われている。荒川の活動をネットワーク化し、売り込むのが荒川上流河川事務所の役割だと思っている。荒川上流河川事務所では、沿川の市町等に参加いただき2年前からコウノトリ・トキに関する勉強会を進めており、来年度以降も継続したい。
- ・埼玉県環境部としては、緑の基金を使ったみどりの再生ということで、生物多様性の高い都市周辺の緑地の公有地化を進めている。埼玉県では19年度に「生物多様性県戦略」を作り、10年以上前にレッドデータブックを作成し、改定もしている。生物多様性を全県に向けて普及啓発をしている。そういった流れの中で、トキ・コウノトリのような生態系の上位の生物の生息できる環境を県全体で高めたい。その他、現在全県的にアライグマが増加しており、コウノトリのような樹上性の鳥を導入する阻害要因になるのではないかと考えている。外来生物対策の面でもバックアップしていきたい。
- ・国が用意している農地・水・環境保全向上対策のようなアイテムを活用していきたい。豊岡のコウノトリ米など農産物のブランド価値が高まっているので、直売所に人を呼ぶ目玉になるかと思っている。できる限りのことをしていきたい。
- ・県土整備部水辺再生室では、川の再生として県内100か所を目指して取り組んでい

る。その中に水生植物を復活させるビオトープの取り組みもあるので、コウノトリに必要な採餌場とも関連があるかと思う。コウノトリに必要な水辺環境の保全に県としても取り組んでいけたらいいと思う。

- ・豊岡市ではコウノトリをシンボルとした地域づくりを行う部署を作ったとのことである。コウノトリのために関わる水辺、農業、産業を、総合的にやったことが推進力になったそうである。そういった推進のための仕組みを自治体にも考えていただけたらと思う。

□コウノトリ・トキの飼育放鳥体制について

- ・飼育放鳥のベースになるのは飼育や増殖の技術だが、県のこども動物自然公園の技術協力が不可欠だと思う。何かアイデアがあれば教えていただきたい。
- ・資料を見ると、こども動物自然公園が「支援動物園候補」となっており、支援だけを行うのかと少しさびしく感じた。ニホンコウノトリ 1つがいがある動物園に来る。繁殖に取り組めたらいいと思うが、コウノトリのペアリングは難しい点もある。ペアリングの容易さと、狭いスペースで飼育が可能であることを考えると、トキのほうが繁殖はさせやすいようにも思う。あえてトキを飼育放鳥対象からはずす必要はないのではないか。

それと、このプロジェクトでは、次世代の土台づくりも重要だと思われる。子どもむけプログラムを作るなどの地道な取り組みもしていく必要があると考えている。繁殖技術の確立は、動物園として早急に努めていく。

(5) 千葉県ワーキング議事要旨

■日 時：平成 22 年 2 月 17 日（水）14：00～16：00

■場 所：京成ホテルミラマーレ 8 階 オーキッド

■出席委員：（名簿順）

蘇 雲山（環境文化創造研究所主席研究員）／中村 俊彦（県立中央博物館副館長）
／長谷川 雅美（東邦大学理学部教授）／秋山 浩保（柏市長 代理：岸本 専兒
まちづくり事業本部長）／井崎 義治（流山市長 代理：吉田 光宏 河川課長）
／太田 洋（いすみ市長 代理：平野 孝幸 総務部企画政策課長）／佐久間 隆
義（市原市長 代理：柴田 孝 河川課長）／根本 崇（野田市長）／藤見 昌弘
（長南町長 代理：星野 昭栄 副町長）／星野 順一郎（我孫子市長 代理：杉
森 文夫 手賀沼課副参事）／山崎 山洋（印西市長 代理：細谷 利春 生活環
境課副主幹）／横山 久雅子（白井市長 代理：川村 明 環境課長）／高橋 克
和（関東地方整備局河川環境課長 代理：清水 良朗 河川環境課調査係長）／細
谷 裕士（関東農政局農村計画部資源課長）／高島 英二郎（関東地方整備局江戸
川河川事務所長 代理：澤石 久巳 副所長）／田所 正（関東地方整備局利根川
上流河川事務所長 代理：羽澤 敏行 地域連携課長）／松井 健一（関東地方整
備局利根川下流河川事務所長）／橋場 克司（千葉県県土整備部長 代理：大野 二
三男 河川環境課）／依田 茂（千葉県農林水産部長 代理：小倉 千生 農村振
興課）／市原 久夫（千葉県環境生活部長 代理：堀越 健一 自然保護課）／一
島 正四（NPO 法人ラーバン千葉ネットワーク理事長）／金親 博榮（里山シンプ
ジウム実行委員会代表）／新保 國弘（東葛自然と文化研究所長）／手塚 幸夫（ち
ば生物多様性県民会議副代表）

■随行者、オブザーバー（順不同）

谷口 英博（野田市建設局長）／宮本 武志（野田市みどりの課主任）／南條 洋
介（柏市公園緑政課長）／峰島 宗利（いすみ市総務部企画政策課副主幹）／江澤
卓哉（長南町企画政策課協働推進室）／濱田 謙二郎（関東農政局農村計画部資源
課係長）／山川 良徳（関東地方整備局江戸川河川事務所調査課係長）／池上 清
子（関東地方整備局利根川上流河川事務所地域連携課）／高原 和宏（千葉県県土
整備部河川環境課）／東條 道宏（千葉県農林水産部農村振興課）／石田 晶久（千
葉県総合企画課参事）／佐々木 悟（千葉県総合企画部地域づくり推進課副主幹）
／武田 広子（東邦大学学生）

■事務局

野田市都市計画部 : 伊藤秀一、相島一美、染谷尚之
(財)日本生態系協会 : 須永伊知郎、関健志、遠藤立



1. 開 会
2. あいさつ（野田市 根本市長）
3. 座長あいさつ（長谷川座長）
4. 議 事（長谷川座長）
 - (1) 調査背景について
 - (2) 調査結果について
 - (3) コウノトリ・トキの野生復帰の可能性について

※事務局より、調査背景について[資料 1]、調査結果について[資料 2]、コウノトリ・トキの野生復帰の可能性について[資料 3]を説明した。
5. そ の 他
6. 閉 会・あいさつ（野田市 伊藤都市計画部長）

【説明及び質疑応答・意見】

□コウノトリ・トキの野生復帰の可能性について

- ・佐渡でも、豊岡でも、トキ・コウノトリの野生復帰に向けた取り組みは順調に進められており、これから千葉周辺で同じような形で行えば、必ず良い成果になると思う。
- ・トキやコウノトリが来ることで皆が喜ぶということ、あるいは地域が活性化することなどは勿論あるが、千葉にはトキ、コウノトリが、かつて沢山いたこと、谷津田や里山、森と田んぼがセットの豊かな水辺があり今でもコウノトリが度々来ていること。そういう面でも、千葉にコウノトリやトキがいるのは当たり前なことと思うべき。故郷の自然や文化、あるいは命を大事にする中で、地域を活性化するとともに、将来の子供たちのためにも、このプロジェクトを進めていきたい。
- ・例えば野田市や印西市の辺りに湿地があり、コウノトリやトキはそれらの湿地等を利用しながら、1羽で数 km 四方の面積を利用する。その広いエリアの中で、十分に餌を食べられることができる環境があれば、コウノトリやトキの生活は可能である。
 関東で野生復帰の利点の1つとして、多摩動物公園でコウノトリが飼育され、大

空に飛び立てる準備のある鳥たちが沢山産まれ育っており、すぐにでも放せる状態にあるという背景がある。

- ・トキとコウノトリをどこから連れてくるかを考えなくては行けないが、トキの事業は国の事業として環境省が統括している。今年の1月から、石川県でトキ4羽の飼育をはじめ、繁殖・野生復帰につなげる計画が行われている。それ以外でも島根県などが手を上げており、大分県九重町や群馬県川場村などでも真剣に検討している。千葉県としては、早めに環境省の方へ申し出て、我々もこれから野生復帰を行う意志を示さないと出遅れると思われる。

千葉県の営巣環境や採餌環境の条件は非常に素晴らしいと思う。佐渡は台風も来るし、冬は寒く雪が非常に多いため、冬場の餌場は凍結するので、トキの餌環境としては良くない。それに対して、千葉県の方ではあまり台風は来ないし、冬場は雪が少なく餌場も凍結しないので、環境は佐渡よりは優れており、努力すれば野生復帰は十分可能と思われる。

□コウノトリ・トキの生息環境づくりに関連した取り組みについて

- ・利根運河の北側にある江川地区で、70ヘクタールの田んぼと斜面林20ヘクタールを保全する取り組みを行っている。農薬を使わない田んぼの復元をはじめて約3年だが、自然が非常によく戻ってきている。野田にも鴻巣という地名があり、コウノトリが昔いたと思われることもあり、積極的にこの取り組みを進めていきたい。生息環境を評価する資料で、1~3月が不適合評価となっていたが、現在、乾田化している田んぼに冬期、水をためておけば、可能性が出てくるのではと思っている。
- ・流山の新川耕地は、面積は非常に小さいが、ヨシゴイが繁殖している湿地があり、何年前前に近くの今上耕地でケリの繁殖を確認している。水管理や草地管理をうまく行えば、タマシギも繁殖できるような環境ポテンシャルを持っていると思う。トキとコウノトリを目指して色々な水辺環境などをつくっていくと、思いもよらない様々な成果を期待できるのではないかと。
- ・流山市の新川耕地は、国が利根運河の管理の関係で取得してあった土地で、現在は特に使い道がなく手がつけられずに残っている場所。自然が良く残っているので、流山市の方から、あるいは3市で協議している「利根運河協議会」の中で、保全活用が議論されている場所でもある。先程、野田市長から、利根運河エリアでは、冬期はトキ・コウノトリが暮らすには少し不適なエリアが多いので、冬も水を張った田んぼを作るといふ施策を考えているという話があったが、たねちとしても、公有地、公共の用地をうまく活用しよう、という動きも出ていることを理解して頂けたらと思う。
- ・資料3の生息環境評価図で、緑の所は適切で黄色の所は不適切ということだが、見ただ目で緑に見えるところも、その質が問われる。また、施設として示された既存のものリニューアルをもう一度検討頂きたい。例えば、「いすみ環境と文化のさと」

はバブル期に創られた施設だが、かつて創った時のスタイルそのまま縮小していくのではなく、新しい時代に則したものとして、もう一度議論に付し、使い方を考える機会をつくって頂きたい。地域に創った施設から国や県がなるべく撤退せずに、新しい知恵を地域と共に創っていくことをお願いしたい。

千葉県の中央部では、耕作をしづらい谷津田を中心として耕作放棄が進み圃場整備が行われたところが最後に残る。圃場整備した水田は、どうしても機械化と農薬に頼るといのが流れ。そういう意味では、この地域でどうしたら減農薬をしてくれるのか、どういう風な無農薬の地域づくりができるのかを、この機会に是非やっていきたい。冬場に圃場整備した所は水を抜くが、水を抜く限りトキ、コウノトリの息は望めないので、農業のあり方や農業の力をどう復元していくかということ、是非この中で議論していきたい。その意味では、国や県に、農業や地域づくりに関する力強い支援が必要なことを計画の中に入れて頂きたい。

- ・夢を持って進むのも良いが、誰がこれを行うかといえば、基本的には「人」。人は生活と結びつく訳で、生活をどういう風に担保していくかは夢だけでは難しい。私自身の生活なども後10年したら皆農業を辞めるよというような問題点を含んでいる。夢に向かって、生物多様性、色々な動物に優しい農業づくり、山林づくり、そういった切り口で、関係の市町をはじめとして取り組んで頂けると、農家にも非常に嬉しい話になるのではないかと期待を込めて参加している。
- ・トキとコウノトリを放鳥するためには何が必要かということ、営巣環境や採餌環境をまず創らなくてはいけない。それは、農業と深く関連があり、農業の見直しが必要。例えば農薬、化学肥料、除草剤などを見直さなくてはいけない。現在では、禁止ということは難しいが、減農薬ということで、地域では色々努力しなくてはいけない。農業の産業構造、農薬や肥料の問題について、これからは是非検討して頂きたい。
- ・印西市の千葉ニュータウンの周辺には、素晴らしい谷津田がそっくり残っている。谷津田は農業にかなり苦勞する場所とのことであるが、逆に、谷津田を利用してコウノトリの餌場とすればいいのではないかと頭の中で思い描いており、農家の方を説得すればできるかとも考えている。

□野生復帰に向けた連携のあり方について

- ・野田市でもたね地づくりの一つを進めていきたいと考えているが、コウノトリは飛んでいくので、野田市だけで行っても仕方ないと思う。他の市町に対しても、この話をすると多くの市長は関心があり、なぜ声をかけないのかと怒られてしまうので、広く千葉県内はもとより、できれば今回の南関東というエリアを対象に期成同盟会的な組織を創り、県や国にも連携・支援をお願いしていけたらと考えている。
- ・利根運河の場合には3市が入っているが、地域連携については、いわゆる市民団体のレベルで、既に連携の輪を少しずつ作っている。広域連携の1つの例として、サシバの渡りの観察会がある。全国様々なところで行われており、3年ほど前から関

東地域で集まって年1回情報交換会を行っているほか、今年はできたら全国大会を行っていきたくと考えている。このように鳥の種によっては関心のある方が集まり、連携につながりやすい。そこに行政の方が加わって頂くと、エリア間の連携ができると思う。

- ・我孫子市には国内唯一の民間の鳥の研究所である「山階鳥類研究所」と、市立の鳥類専門の博物館「我孫子鳥の博物館」があり、30年間、手賀沼の水鳥調査を続けている「我孫子野鳥を守る会」がある。また、エリア間の連携に関連しては、国内で一番大きな鳥の祭りともいわれる「我孫子ジャパンバードフィスティバル」が毎年行われている。そういった場で、それぞれ議論していること、考えていることなどを発表して頂けると、市民の方々に、国や県や市レベルの考え方を提案することができる。またNGOの人たちも、そういった発表を聞いて、自分たちの知識あるいは行動のエネルギーにもなる。
- ・この冬に私はコハクチョウを追っかけている。コハクチョウの餌場は水田で、落ち穂を喜んで食べるほか浅い沼や用水堰を好む。ピッタリではないが、トキ、コウノトリが生息する環境とも重なってくるだろうと思っている。非常に面白いのは、(北総地域の)本埜や手賀沼といすみの間でハクチョウが行き来していること。ここで参加している千葉県ワーキングの地域は、コハクチョウでもつながっており、ワーキングでのエリア間の連携も必要。キーワードは「田んぼ」だと思う。私が携わっている谷津田再生の地域連携の中では、ボランティアがものすごく集まるので、そこに是非目を向けて、県レベル、国レベルの支援を入れて頂く。特に農水の方では国の法律として「有機農業推進法」が成立しているので、農水の中での情報交換と連携をして、モデルケースとして、こういう地域をバックアップしていくようなプランニングをして頂けたら、農業のあり方に関しても、この枠組みに関しても、新しい何か良いものがでてくるのではないかな。
- ・今日の話聞き、いつも私どもでも話していること、里山、農地、田んぼ、そして田舎の人たちが担い手になる時代が来たのだな、それが期待されている答えだなという風を感じている。
- ・野田市長からあったように、この3つの地域の市町村の連携を期成同盟的なネットワークで実現し、県や国と共に夢を実現させる一歩を踏み出せたら良いのではないかな。

2-4 効果的・一体的な野生復帰プロセス、メニューに関する検討

大型鳥類であるコウノトリ・トキの野生復帰を定着させるためには、広域的な移動を行うことを踏まえた広域的な取り組みが不可欠である。従って、プロセスごとの取り組みメニューの検討およびWGの開催によるエリアごとの実現に向けた方向性の検討を踏まえつつ、南関東地域という広域にわたる地域全体として、効果的・一体的に取り組みを推進するための取り組みのメニューおよびプロセス等について検討を行った。

(1) 野生復帰に係る取り組みメニュー・プロセスの検討

各ステージにおける具体的な取り組みメニューを改めて抽出・整理するとともに、中・長期的な取り組みのプロセスとして「計画期」・「試験放鳥準備期」・「試験放鳥期」・「野生復帰・定着期」の各期を設定し、それぞれのメニューのおよその推進スケジュールを想定した。(表 2-4-1)

また、コウノトリ・トキの野生復帰を核とした地域づくりを進めていく上では、取り組みメニュー表に整理したような幅広い分野にわたる取り組みを、個別の地域(エリア)で進めつつ、エリア間における連携・協働をはかっていくことが求められる。

従って、本年度に設定したエリア別ワーキングをベースとしつつ、南関東地域全体を視野にいたした、地域および分野横断的な推進体制(図 2-4-1 参照)を構築し、取り組みにおけるエリア間の連携・協働・調整を推進していくことが重要と考えられる。

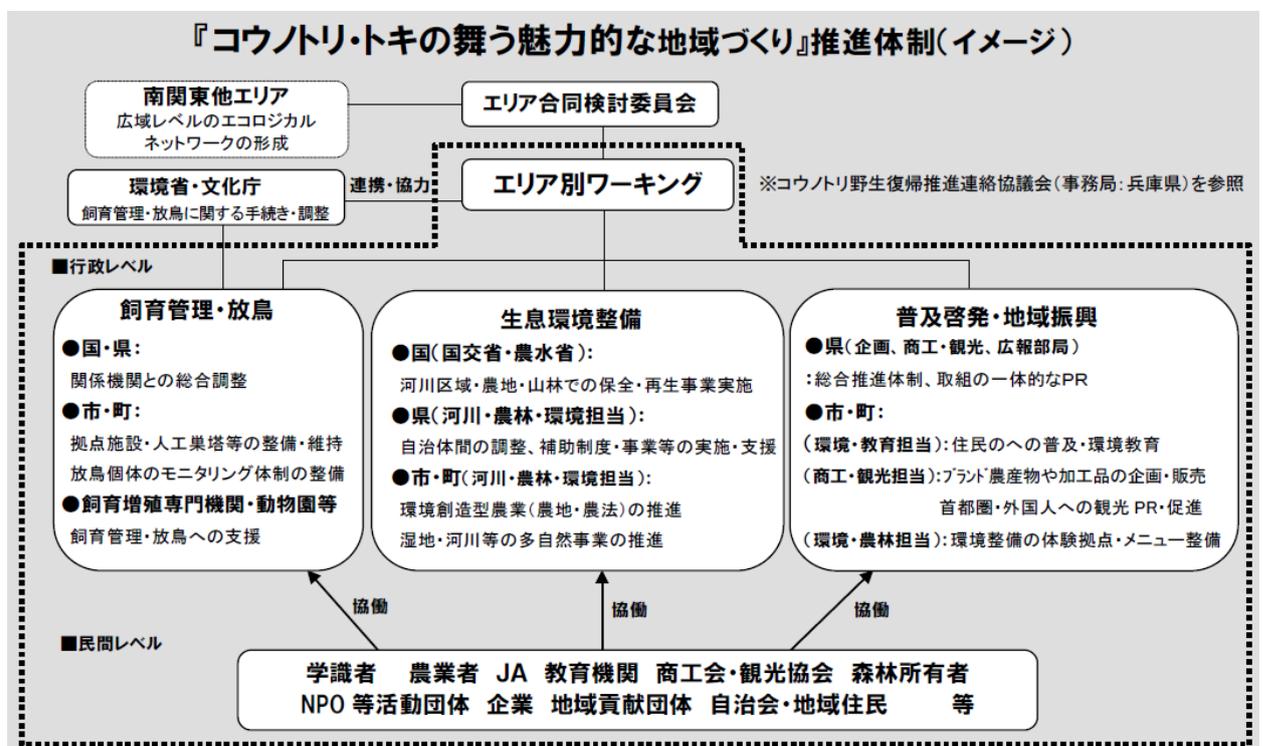


図 2-4-1 推進体制イメージ

表 2-4-1 実施メニュー・プロセス(案)の一覧

| | メニュー | プロセス | | | | 関連主体等 | |
|---------------------------|------------------------|----------------------------------------------|----------------------------------------------|-------------|---------------|-----------------|--------------|
| | | 計画期 | 試験放鳥準備期 | 試験放鳥期 | 野生復帰・定着期 | | |
| 【Stage A】飼育・放鳥事業 | 事前調査・計画等 | 基礎情報の収集・整理 | | | | 推進協議会 | |
| | | 飼育・放鳥計画の策定(方法、時期、個体数等) | | | | 5エリア連絡協議会等 | |
| | 飼育・放鳥拠点の整備 | 飼育・放鳥拠点の検討・選定 | | | | 推進協議会 | |
| | | 拠点用地の確保 | | | | 国・県・市町 | |
| | | 拠点施設の整備 | | | | 県・市町 | |
| | 受け入れ環境の把握 | 拠点周辺(近距離周辺整備地区)の環境評価 | | | | 推進協議会 | |
| | | 放鳥による農水産物の被害懸念への説明対応 | | | | 国・県・市町 | |
| | 個体の飼育・管理 | 増殖個体の提供(ペアリング、馴化訓練含む) | | | | 動物園 | |
| | | 飼育・放鳥拠点での個体の飼育・管理・増殖 | | | | 市町、動物園、獣医師 | |
| | 放鳥・野生復帰 | 放鳥の実施 | | | | 市町・関係者協議会等 | |
| 遺伝的多様性の確保 | | | | | 研究者、推進協議会 | | |
| 放鳥後のモニタリング方法・体制の検討・実施 | | | | | 研究者、NPO、推進協議会 | | |
| 受け入れ環境づくり | 地域の受け入れコンセンサスづくり | | | | 市町・企業・住民等 | | |
| | 餌の確保(ドジョウの養殖等)の検討・実施 | | | | 県・市町・地元農家等 | | |
| 【Stage B】生息環境整備事業 | 現状把握・計画 | 現状の環境の調査・評価、生息環境整備計画の検討 | | | | 推進協議会 | |
| | 河川区域 | 特徴的な水辺環境の保全・再生・創出 | 河岸浅瀬の創出 | | | | 国・県・市町 |
| | | | 湿地環境の再生 | | | | 国・県・市町 |
| | | | 環境推移帯の再生 | | | | 国・県・市町 |
| | 河川の連続性の確保 | 魚道の整備・改善、河川の連続性の確保 | 樋門落差解消、支川・本川の連続性の確保 | | | | 国・県・市町 |
| | | | 人と河川の関わり | 環境学習拠点の整備 | | | |
| | 農地 | 環境創造型農業の推進 | 環境創造型農業の普及 | | | | 国・県・市町・農家 |
| | | | コウノトリ・トキブランド米の流通システムの構築 | | | | 県・市町・JA・企業 |
| | 樹林 | 生態系豊かな水田づくり | 集落営農組織の育成 | | | | 県・市町・農家 |
| | | | 冬期湛水水田の推進 | | | | 県・市町・NPO |
| | | | 転作田のビオトープ化 | | | | 県・市町・NPO |
| | その他 | 営巣・孵の適木育成 里山林づくり | 排水路と水田の連続性の確保(魚道) | | | | 県・市町・NPO |
| | | | 営巣木となるアカマツ林の育成 | | | | 県・市町・NPO |
| | | | マツクイムシ防除等、マツ林の保全 | | | | 国・県・市町 |
| | | | 里山林の保全・管理 | | | | 県・市町・NPO |
| | | 支障物対策(電線、鉄塔、飛行場等) | | | | 県・市町・企業 | |
| 【Stage C】普及啓発・地域振興 | 事前調査・計画等 | 基礎情報の収集・整理、取り組みの検討 | | | | 県・市町・市民団体等 | |
| | コウノトリと共生する | 住民が参加する仕組み | 住民を対象としたコウノトリ・トキとの共生理解のための環境教育(講座の実施、生涯学習講座) | | | | 市町・市民団体・住民 |
| | | | 環境づくりに向けて住民が活動できる拠点、既存団体などの情報整理・発信 | | | | 県・市町・市民団体 |
| | | | コウノトリ・トキのために住民が参加・支援可能なことを整理し、パンフレットなどで広報・配布 | | | | 県・市町 |
| | | | 小中学校など義務教育でのコウノトリ・トキとの共生に関する体験学習・総合学習 | | | | 市町・市民団体・教育機関 |
| | | | 放鳥後のモニタリングや環境調査への参加 | | | | 市町・市民団体・住民 |
| | コウノトリ・トキとの共生を活かす | 地域全体での盛り上がり | 既存施設(道の駅等)を活用したコウノトリ・トキに関する取組の情報集約・発信の拠点整備 | | | | 市町 |
| | | | コウノトリやトキをシンボルとした看板等の整備 | | | | 国・県・市町 |
| | | | 継続的なコウノトリ・トキに関する情報の発信(ローカルテレビ、ラジオ、新聞などのコーナー) | | | | 市町・企業等 |
| | 普及啓発・取組の継続・発展に向けて | コウノトリ・トキとの共生を活かす | コウノトリ・トキを目玉とした観光プロモーションの実施 | | | | 国・県・市町・企業等 |
| | | | 飼育・放鳥拠点周辺の既存施設を活かした来訪者向けの情報発信・商品販売拠点の整備 | | | | 市町 |
| | | | 体験拠点の整備や体験プログラムの整理 | | | | 市町・市民団体 |
| | | | エコツアーガイドやコーディネーターの育成 | | | | 市町・市民団体・住民 |
| | | | 情報発信拠点へのコーディネーターやガイドの配置 | | | | 市町 |
| | | | 旅行者や交通機関との連携 | | | | 市町・企業等 |
| エリア内のブランド農産物、加工品等の整理 | | | | | | 市町・民間事業者・農家 | |
| 環境づくりのための商品としてのプロモーションの実施 | | | | 市町・民間事業者・企業 | | | |
| 推進組織 | 各エリアの野生復帰推進計画の検討・策定・推進 | 道の駅、アンテナショップ、ネット販売等を活用した販売促進 | | | | 市町・企業 | |
| | | 地域外の住民や来訪者による支援体制づくり(観光情報、活動情報、商品購入などの情報を提供) | | | | 市町・企業等 | |
| | | 取組の発信・普及や支援呼びかけの説明会、報告会、交流会の実施 | | | | 国・県・市町・市民団体・企業等 | |
| | | 南関東他エリアとの定期的な自然・社会面のモニタリング結果の報告、情報交換会 | | | | 国・県・市町・市民団体・企業等 | |
| | | エリア毎にワーキングの開催・運営 | | | | 国・県・市町 | |
| | | 各エリアの野生復帰推進計画の検討・策定・推進 | 検討 | 策定 | 推進 | 見直し・推進 | 推進協議会等 |

(2) 参加自治体の意向の把握

取り組みを実現するためには、関連する多様な主体による連携・協働が重要となる。そのため、まず、各WGのメンバーとなっている5県5エリア20自治体に対し、本事業を進めていく上での意向・課題についてアンケート形式による調査を行った。

p 206～207にアンケートの調査票を、p 208～211に主な意見についてとりまとめた。アンケートで把握された意見のおよその内容は下記の各点であった。

- 単独での取り組みは難しく、広域的な協力も必要であることから、国や県の支援・協力が不可欠。
- 継続的かつ省庁・分野横断的な検討・協議の場が必要。
- 積極的に取り組みたい、支援・協力なら可能など、それぞれの意向、事情に沿った役割のもとで連携・協働を進めていく仕組みが必要。(全ての主体が同じ取り組みを進めることは困難)
- 地域、市民団体、事業者等の理解・協力が不可欠。
- 専門家、研究者との連携、支援が必要。
- 調査研究など、状況を的確に把握したうえでの取り組みとすることが必要。
- 地域活性化や既存の事業とうまく結び付けていくことが必要。
- 関係主体間において理念、目標を共有することが必要。

<参考>自治体への意向等調査アンケート

**南関東地域におけるエコロジカル・ネットワーク形成による魅力的な地域づくりワーキング
に関するアンケート【自治体名： ・ご担当部署： 】**

- 問1. 「コウノトリ・トキの野生復帰を通じた魅力的な地域づくり」に取り組むことについて、どのようにお考えですか？また、そのために同じエリア内の他の自治体との連携や、他のエリアとの広域的な連携に取り組むことについて、どのようにお考えですか？

(回答欄)

- 問2. コウノトリ・トキの飼育・放鳥拠点として施設整備に取り組む意向はありますか？また、飼育・放鳥体制として人的整備に取り組む意向はありますか？この取組について、貴自治体で担えること、他の機関等に協力を依頼したいこと等もご記入ください。

(回答欄)

- 問3. コウノトリ・トキの採餌環境（河川・湿地・水田等）の保全・再生に取り組む意向はありますか？また、営巣・孵環境（樹林地）の保全・再生に取り組む意向はありますか？この取組について、貴自治体で担えること、他の機関等に協力を依頼したいこと等もご記入ください。

(回答欄)

- 問4. コウノトリ・トキをシンボルとした経済活性化（商品開発・エコツーリズム等）に取り組む意向はありますか？また、地域振興（普及啓発・環境教育等）に取り組む意向はありますか？この取組について、貴自治体で担えること、他の機関等に協力を依頼したいこと等もご記入ください。

(回答欄)

(つづき)

アンケート送付先：(財)日本生態系協会

〒171-0021 東京都豊島区西池袋 2-30-20 FAX 03(5951)2974 担当：遠藤・渡辺

- 問5. WG資料1のp.20に示された、成果1：「(仮)南関東地域におけるコウノトリ・トキの舞う魅力的な地域づくりを目指して」の提言に盛り込む内容について、ご意見ご希望がございましたら、以下にお書きください。

(回答欄)

- 問6. WG資料1のp.20に示された、成果2：「コウノトリ・トキを指標とした南関東地域の将来目標像(マップ)」に盛り込む内容について、ご意見・ご希望がございましたら、以下にお書きください。

(回答欄)

- 問7. WG資料3のp.5に示された、成果3：「戦略プログラムの検討」に盛り込む内容について、ご意見・ご希望がございましたら、以下にお書きください。

(回答欄)

- その他のご意見・ご希望がございましたら、以下にお書きください。

(ご意見欄)

ご協力ありがとうございました。(2月22日(月)必着にてお願いいたします)

**南関東地域におけるエコロジカル・ネットワーク形成による
魅力的な地域づくりワーキングに関するアンケート**

<結果概要>

■問1. 「コウノトリ・トキの野生復帰を通じた魅力的な地域づくり」に取り組むことについて、どのようにお考えですか？また、そのために同じエリア内の他の自治体との連携や、他のエリアとの広域的な連携に取り組むことについて、どのようにお考えですか？

| WG | 主な意見・意向 |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 渡良瀬WG | <ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度立ち上げた検討委員会の継続を求めたい。 ・ 積極的に取り組みたい。 ・ 地域に既存する連携を活かしたい。 ・ 連携が図られることは好ましい。 ・ 幹事自治体をお願いしたい。 ・ 十分配慮をした上で取り組みを進める必要がある。(鳥類による水産業被害など) |
| 荒川流域WG | <ul style="list-style-type: none"> ・ 積極的に取り組みたい。 ・ 地域農業の振興につながる取り組みとする必要がある。 ・ 国、県を中心とした広域的な連携が必要不可欠と考える。(3) ・ 都市的土地利用の阻害とならないような明確な指針が必要と考える。 |
| 千葉県WG | <ul style="list-style-type: none"> ・ 積極的に取り組みたい。前向きに検討したい。(3) ・ 今年度立ち上げた検討委員会の継続を求めたい。 ・ 可能な範囲で協力したい。(3) ・ 地域に既存する連携を活かしたい。(2) ・ 国、県を中心とした広域的な連携が必要不可欠と考える。(2) ・ 地域農業の振興につながる取り組みとする必要がある。 ・ 現段階では、予定はありません。 |

■問2. コウノトリ・トキの飼育・放鳥拠点として施設整備に取り組む意向はありますか？また、飼育・放鳥体制として人的整備に取り組む意向はありますか？この取組について、貴自治体で担えること、他の機関等に協力を依頼したいこと等もご記入ください。

| WG | 主な意見・意向 |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 渡良瀬WG | <ul style="list-style-type: none"> ・ 調査業務委託を行います。 ・ 協力したい。 ・ WGでの検討及び連携を求める。 |
| 荒川流域WG | <ul style="list-style-type: none"> ・ 飼育・放鳥について今後研究をしていく。 ・ エリア内の自治体や広域的な取り組みであれば協力できる。 |
| 千葉県WG | <ul style="list-style-type: none"> ・ 飼育、放鳥拠点として施設整備について自然共生地域づくりとの整合を図りつつ検討。 ・ 研究機関の支援や協力、NPO等との連携の検討。(2) ・ 施設整備に取り組む以前に、流域自体の環境整備や活動の体制づくり。 ・ 既存のプロジェクトと連携して、今後の可能性を検討する。(2) ・ 千葉県の協力が不可欠である。 |

■問3. コウノトリ・トキの採餌環境（河川・湿地・水田等）の保全・再生に取り組む意向はありますか？また、営巣・埒環境（樹林地）の保全・再生に取り組む意向はありますか？この取組について、貴自治体で担えること、他の機関等に協力を依頼したいこと等もご記入ください。

| WG | 主な意見・意向 |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 渡良瀬WG | <ul style="list-style-type: none"> 多自然川づくりの推進。 環境保全型農業の推進。 「農業団体」や「農地・水・環境保全向上団体」の活用。 地域の農業者の理解、協力が得られれば取り組みたい。 「とちぎの元気な森づくり県民税」の活用。 WGでの検討及び連携を求める。 |
| 荒川流域WG | <ul style="list-style-type: none"> 採餌環境、営巣、埒環境について今後研究をしていく。 農村環境における保全活動を行っている組織などへの働きかけ。 「農地・水・環境保全向上対策」への取り組み。 みどりと川の再生をはじめとする環境行政全般を通じての積極的な自然環境の保全再生。 エリア内の自治体や広域的な取り組みであれば協力できる。 |
| 千葉県WG | <ul style="list-style-type: none"> 多様な生き物が生息・生育できる樹林地や水田や谷津田などの保全。(5) 採餌環境や営巣、埒環境の保全と再生への取り組み。 多自然川づくり、水辺環境整備、などによる自然環境に配慮した水辺の整備の推進。 民間企業等の協力を検討、呼びかけ。(コウノトリの人工巣塔の設置等) 「農地・水・環境保全向上対策」。 関係機関や団体等との連携。 持続的な支援体制の確立が必要。 |

■問4. コウノトリ・トキをシンボルとした経済活性化（商品開発・エコツーリズム等）に取り組む意向はありますか？また、地域振興（普及啓発・環境教育等）に取り組む意向はありますか？この取組について、貴自治体で担えること、他の機関等に協力を依頼したいこと等もご記入ください。

| WG | 主な意見・意向 |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 渡良瀬WG | <ul style="list-style-type: none"> 積極的に取り組みたい。 農産物の認証制度や技術の普及。 特別栽培米や農産物のブランド化。 |
| 荒川流域WG | <ul style="list-style-type: none"> 菓子や祭りでのパレードの実施。 農産物のブランド化。 |
| 千葉県WG | <ul style="list-style-type: none"> 特別栽培米の検討・実施。 県や国に、このPRや流通・販売に向けた支援、協力。(2) 地域資源の活用、環境と歴史文化が培った美意識を有効活用。 圏央道の開通に伴う中房総の観光振興とのリンク。 鳥のイベントや手賀沼を意識したまちづくりには積極的に取り組む。 |

■問5. 成果1：「(仮)南関東地域におけるコウノトリ・トキの舞う魅力的な地域づくりを目指して」の提言に盛り込む内容について、ご意見ご希望がございましたら以下にお書きください。

| WG | 主な意見・意向 |
|-------|-----------------------------------------------------------------------|
| 渡良瀬WG | <ul style="list-style-type: none"> “南関東”という表現を修正できないか。 |

| | |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | <ul style="list-style-type: none"> 渡良瀬遊水地においては、ラムサール条約の登録についての活動が今後活発になることが想定されることから、『国土交通省・農林水産省・環境省』の連携について記載をお願いしたい。 |
| 荒川流域WG | ※特になし。 |
| 千葉県WG | <ul style="list-style-type: none"> 魅力的な地域づくりのために必要な、国、県、市町村、NPO、関係団体、企業等の関係主体による役割と協働の理念を盛り込むことが良いと思われる。 提言文中「水辺環境の保全・再生を通じた・・・」を「水辺環境（水辺の生態系）の保全・再生を通じた・・・」に追加変更したらいかかでしょうか。 森林や議論のあった農地の問題なども加えたらどうか。 子どもたちが生まれ、豊かな自然に囲まれ、すくすくと、育つ魅力ある環境を再生する。 提言には、目標実現に向けた基本方針だけでなく、目標実現に向けて障害となる事項も「解決します」「調整します」という言葉を付けて、加えてはどうか。 |

■問6. 成果2：「コウノトリ・トキを指標とした南関東地域の将来目標像（マップ）」に盛り込む内容について、ご意見・ご希望がございましたら、以下にお書きください。

| WG | 主な意見・意向 |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 渡良瀬WG | ※特になし。 |
| 荒川流域WG | <ul style="list-style-type: none"> 当該地域は首都圏の都市地域である。参考例のイラストマップは場違いである。首都圏の都市地域にふさわしいイラストマップとすべきである。 |
| 千葉県WG | <ul style="list-style-type: none"> 今回、検討の対象となった5つのエリアが関連しているイメージが示せると良いと思われる。 環境の断片ではなく、生態系が保全されているイメージを盛り込むと良いのでは。 将来目標をイラストマップでイメージさせることは、良いと思う。 |

■問7. 成果3：「戦略プログラムの検討」に盛り込む内容について、ご意見・ご希望がございましたら、以下にお書きください。

| WG | 主な意見・意向 |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 渡良瀬WG | <ul style="list-style-type: none"> 営巣・孵等生息環境の整備については生態系への影響もあることから、専門的な知見を踏まえて進めていく必要がある。 |
| 荒川流域WG | <ul style="list-style-type: none"> STAGE2に、関係農家の支援、協力体制の整備について追加希望。 事業の実施主体、飼育設備の設置主体について、大規模な事業となることから、国・県に音頭を取って頂き、広域的事業とする事が望ましいと考えます。 コウノトリ・トキの野生復帰の取り組みが都市開発の足かせとならないような仕組み、指針を戦略プログラムの前提事項として整理し、記述すべきである。 「B. 採餌および営巣・孵の生息環境整備の推進」に、営巣を脅かす可能性強いアライグマの排除を目指すことを加える必要があると考えます。 |
| 千葉県WG | <ul style="list-style-type: none"> STAGE1 たね地づくりの具体的な役割をもう少し記載したらどうか。 STAGE2 定着地づくりの採餌環境の維持には、官民協働による地域住民の役割も必要だと思うが。 コウノトリが定住・繁殖可能な環境であるか否かの検証を行うステージが |

| | |
|--|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | <p>必要でないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市町村が担う役割、施策内容、手順を具体的に示していただきたい。また、国・県の支援・協力の内容についても明確に示していただきたい。 ・ STAGE 1には「設置主体は市町・県を基本とし」と記載されているが、国、県、市町村の役割について十分な議論されていないなかで、このように記載することは差し控えていただきたい。 |
|--|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

■ 其他のご意見・ご希望がございましたら、以下にお書きください。

| WG | 主な意見・意向 |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 渡良瀬WG | <ul style="list-style-type: none"> ・ トキ・コウノトリの野生復帰については関係市町の意識・取り組みに温度差が感じられるため、今後共通の理解を図るためにも、ワーキングの継続に加えて、関係自治体によるフォーラム等の設立を望みます。また、栃木県などに関係者としてさらなる協力を求めるための推進体制を整えるような仕組みを期待します。 ・ ネットワーク形成にあたり、今後ともWGでの検討等が必要と思う。 |
| 荒川流域WG | <ul style="list-style-type: none"> ・ 対象エリア内では、休耕田が盛り土によって畑地へ転換される事例が増えていますが、採餌環境の整備と関連した考察が必要ではないでしょうか。 |
| 千葉県WG | <ul style="list-style-type: none"> ・ 調査・検討の期間が半年にも満たない中で結論を導き出すというのは、時間が短かったため、各ブロックの温度差の解消や連携の意思疎通が不足していたように思われる。今後は、この点も含め、今年度立ち上げた検討委員会や、各エリアでもWGの継続について、次年度以降も実施していただけるように、国土交通省、農林水産省の支援・協力を要望したい。 ・ 利根運河周辺エリアに関しては、ほぼ共通する構成者により、「利根運河協議会」が設立されているため、協議会のテーマのひとつに加えて検討を深めていくことが有効である。 ・ 千葉県内では3つのエリアで検討が行われているため、千葉県として推進体制を整備することを期待したい。 ・ 農地や樹林地が有する環境保全機能を適正に評価し保全していかない限り、飼育・放鳥しても定住は望めないのではないかと。 ・ 農地や樹林地を適正に保全した結果としてコウノトリは定住するのではないかと。 ・ 谷津の盛土規制強化が必要でないかと。 ・ 今年度限りの花火を打ち上げて終わりという調査ではなく、国交省・農水省は元より、コウノトリ・トキの関係省庁として環境省・文化庁の参画を得て、省庁・部局横断的な検討・推進体制の構築が必要と考える。 ・ トキ佐渡モデル地区など前例での具体的なきっかけづくり、特に、環境整備の取り組み方・地域への説明方法などの経験・苦労・失敗談などを聞きたい。 ・ ここで示された戦略プログラムの最終目標はいつであるのか。また、それに要するコスト負担はどの程度になるのか、誰が負担していくのか。 ・ 今後の展開を明確に示してもらいたい。今回のエリア毎に3自治体ずつのみの参加なので、「北総」「房総中部」では地区を表示している円の中で抜けている市町村があり、また、円をどこに書くかによっても関係自治体がかわってくる。 |

(3) 野生復帰にむけた今後の課題

各ワーキングでの議論および各自治体からの意見も踏まえ、コウノトリ・トキの野生復帰実現に向けた広域的・一体的な取り組みを進める上での課題を以下に整理した。

- ・ 本プロジェクトでは、100年程前に姿を消した首都圏・南関東のコウノトリ・トキを復活させるという壮大な構想であり、個別自治体、単一エリアでの取り組みでは解決が困難な課題も多い。
- ・ しかし、この挑戦的で戦略的なプロジェクトによって、水辺環境の保全・再生がはかられ、地域振興・経済活性化の成果が期待され、生態系サービスの向上に資するものである。
- ・ コウノトリ・トキの舞う地域づくりを実現するためには、段階的なプロセスを通じて、多岐にわたる取り組みメニューが求められる。
- ・ 県・市町村では、河川・農地・環境・商工・観光の各セクションが横断的に取組むプロジェクトチームを組織し、国は関係省庁の協力・支援のみならず実施主体としての事業化が求められる。

2-5 提言のとりまとめ

3つのワーキング・グループの検討を踏まえ、南関東地域における将来のコウノトリ・トキの野生復帰の実現に必要な項目について基本方針を検討し、提言のとりまとめを行った。

提言に盛り込む文言については、「南関東エコロジカル・ネットワーク形成に関する検討委員会」（事務局：関東地方整備局河川部河川環境課）の「設立趣旨」、「南関東地域におけるエコロジカル・ネットワーク形成による魅力的な地域づくりワーキング」（事務局：千葉県野田市・（財）日本生態系協会）の「開催趣旨」に記された内容を参考として、それぞれの会議においてイメージを紹介し、意見を求めとりまとめた。

また、提言に基づき、南関東地域における将来のコウノトリ・トキの野生復帰の実現に必要な項目として、基本方針（案）についても前述の会議で意見を求めとりまとめた。

次ページに、提言として「南関東コウノトリ・トキの舞う魅力的な地域づくり宣言（仮称）－南関東地域におけるコウノトリ・トキの舞う魅力的な地域づくりを目指して－」及び「南関東地域におけるコウノトリ・トキの舞う魅力的な地域づくり」推進の基本方針を示した。

南関東コウノトリ・トキの舞う魅力的な地域づくり宣言（仮称）

- 南関東地域におけるコウノトリ・トキの舞う魅力的な地域づくりを目指して -

わたしたちは、かつて水辺の生物多様性が豊かであった南関東地域において、多様な主体の協働・連携によりコウノトリ・トキを指標（シンボル）とした河川および周辺地域における水辺環境等の保全・再生に取り組み、水と緑が豊かなエコロジカル・ネットワークの形成を進めます。そして、コウノトリ・トキの野生復帰を通じた「環境の世紀」にふさわしい地域振興・経済活性化方策にも並行して取り組み、魅力的かつ内発的な地域づくりのための広域連携モデルの形成を推進します。

【「南関東地域におけるコウノトリ・トキの舞う魅力的な地域づくり」推進の基本方針】

1. コウノトリ・トキの野生復帰を通じたエコロジカル・ネットワークの形成に際しては、南関東地域は両種のかつての主要分布域であったことや生態的な特性が近いことから両種をともに野生復帰の目標とし、対象地域間の連携を図りながら南関東から関東全域への魅力的な地域づくりの展開を進めます。
2. コウノトリ・トキの野生復帰に当たっては、安定的な生息が可能となる環境（ハビタット）を保全・再生する取り組みと共に、対象とする地域の人々の暮らしとコウノトリ・トキとの関係が安定的・持続的に形成されることが不可欠となります。すなわち、採餌環境としての河川・湿地・水田等、営巣・埒環境としての樹林地について、コウノトリ・トキの生息条件を満たす環境の整備が必要であり、それらを支える地域の人々の理解と協力に基づく取り組みを進めます。
3. その上で、コウノトリ・トキの保護増殖数の現状と先行事業地における目標や進捗との整合等を勘案し、南関東地域で増殖個体の野外放鳥（リリース）に取り組みます。具体的には、増殖数が多いコウノトリを当面の対象に野外放鳥の実現を目指し、トキは佐渡の取り組み状況を勘案しながら検討を継続します。
4. コウノトリ・トキの野生復帰は、希少生物の保護や生物多様性の改善のみならず地域振興や経済活性化にも大きな役割をもちうることから、環境対策としての基本を踏まえながら、地域ごとの個性に応じた魅力的かつ内発的な地域づくりに向けた取り組みを積極的に推進します。

2-6 地域の将来目標と自然保全・再生、地域振興・経済活性化戦略 の検討

対象5エリアにおける将来目標のイメージマップを作成するとともに、次年度以降の自然保全・再生、地域振興・経済活性化の戦略メニューの提案をとりまとめた。

(1) 将来目標図の検討

将来目標図の検討については、「南関東エコロジカル・ネットワーク形成に関する検討委員会」（事務局：関東地方整備局河川部河川環境課）、及び「南関東地域におけるエコロジカル・ネットワーク形成による魅力的な地域づくりワーキング」（事務局：千葉県野田市・（財）日本生態系協会）においてイメージを紹介し、意見を求めとりまとめた。

将来目標図は、コウノトリ・トキの野生復帰の検討を実施した5つのエリア（渡良瀬遊水地エリア、荒川流域エリア、利根運河周辺エリア、北総（印旛沼・手賀沼）エリア、房総中部エリア）を中心として、コウノトリ・トキの飛翔を5エリアの連携・ネットワークをイメージさせながら、今後、地域が目指す自然保全・再生、地域振興・経済活性化の方策イメージをイラストに表した。

次ページに、将来目標図「南関東エコロジカル・ネットワーク形成によるコウノトリ・トキの舞う魅力的な地域づくりを目指して」を示した。